

(様式第10)

大医病発第83 号

令和 6 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 大阪医科薬科大学
理事長 植木 實

大阪医科薬科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒 569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
氏名	学校法人 大阪医科薬科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

大阪医科薬科大学病院

3 所在の場所

〒 569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
電話(072) 683 - 1221

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科								有
内科と組み合わせた診療科名等								
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科			4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科			8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			<input checked="" type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績								
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科の診療内容は内科で提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科は発症した診療科で対応している。 神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。								

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科の診療内容は外科で提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	0	0	0	863	903

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	650	152	689.5
歯科医師	14	12	17.1
薬剤師	67	13	73.5
保健師	0	0	0
助産師	37	2	38.5
看護師	912	74	966.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	3	1	3.6
管理栄養士	18	1	18.9

職種	員数
看護補助者	124
理学療法士	42
作業療法士	6
視能訓練士	11
義肢装具士	0
臨床工学士	30
栄養士	1
歯科技工士	1
診療放射線技師	52

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	81
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	13	
その他の技術員	17	
事務職員	228	
その他の職員	168	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	55	眼科専門医	12
外科専門医	50	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	8	放射線科専門医	17
小児科専門医	22	脳神経外科専門医	17
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	26
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	23	救急科専門医	15
		合計	289

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (勝間田 敬弘) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

安全管理委員会
 2007年4月1日～2012年3月31日(委員(心臓血管外科科長))
 2012年4月1日～2020年3月31日(委員(薬剤部長))
 2020年4月1日～2024年3月31日(委員(医療機器安全管理責任者))
 2020年4月1日～2022年3月31日(副委員長)
 2024年4月1日～現在(委員長)
 医療安全調査委員会
 2008年2月1日～2008年7月31日、2010年2月1日～2010年7月31日、2012年2月1日～2012年7月31日
 2014年2月1日～2014年7月31日、2016年8月1日～2017年1月31日、2018年8月1日～2019年1月31日
 2022年8月1日～2023年1月31日(委員)
 2020年4月1日～2022年3月31日(委員長)
 医療機器安全管理委員会
 2020年4月1日～2024年3月31日(委員長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	747.4 人	2 人	749.4 人
1日当たり平均外来患者数	1154.2 人	74.3 人	1228.5 人
1日当たり平均調剤数	外来 48.8／入院 1,149.2／合計 1,198.0		剤
必要医師数	150		人
必要歯科医師数	5		人
必要薬剤師数	25		人
必要(准)看護師数	416		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	人工呼吸装置	その他の救急蘇生装置	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー
集中治療室	1121.77 m ²	鉄筋コンクリート	24 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	36.26 m ²	病床数	2 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	40.48 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	352.29 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	統合ゲノム情報発現解析システム、細胞機能解析システム、造血幹細胞数測定装置 Navios EX、多項目自動血球分析装置 XN-9100、遺伝子検査装置cobas5800、グリコヘモグロビン分析装置 アダムスA1cHA-8190V 等		
細菌検査室	136.28 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	同定感受性検査装置VITEK2XL、血液培養装置 パクテアラートVIRTUO、微生物分類同定分析装置バイテックMS Plus 等		
病理検査室	303.87 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、自動染色装置、クリオスタット等		
病理解剖室	63.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台		
研究室	8277.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ドラフトチャンバー、クリーンベンチ、遠心分離機、顕微鏡、培養機器、滅菌器、冷蔵・冷凍機器、超音波洗浄器、純水製造装置、細胞運動解析システム等		
講義室	869.85 m ²	鉄筋コンクリート	室数	5 室	收容定員	720 人
図書室	2610 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	203,962 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88 . 4	%	逆紹介率	58 . 5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		24,063		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,749		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,731		人
	D: 初診の患者の数		30,323		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
小林 一郎	社会医療法人仙養会 北摂総合病院	○	高槻市医師会の医療安全 対策委員会委員であり医 療に係る安全管理に関す る識見を有する者である ため	無	1
西 信一	学校法人兵庫医科大学 宝塚市立病院		大学病院の元副院長、市 民病院の現総長であり医 療に係る安全管理に関す る識見を有する者である ため	無	1
家郷 資大	家郷総合法律事務所		現職の弁護士であり、法 律に関する識見を有する 者であるため	無	1
沖田 章子	神戸総合医療専門学校 平成リハビリテーション 専門学校		実際に医療を受ける者で あり、意見をのべること ができる者であるため	無	2
門田 雅人	学校法人 大阪医科薬科大学		大学医学部の職員経験が あり、医療等の内容及び 説明、同意文書が一般的 に理解できるか等の意見 をのべることができる者 であるため	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	大学病院のWebサイト上に掲載している。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	170	ウィルソン病	0
2	筋萎縮性側索硬化症	37	171	低ホスファターゼ症	0
3	脊髄性筋萎縮症	5	172	VATER症候群	0
4	原発性側索硬化症	0	173	那須・ハコラ病	0
5	進行性核上性麻痺	13	174	ウィーバー症候群	0
6	パーキンソン病	238	175	コフィン・ローリー症候群	0
7	大脳皮質基底核変性症	3	176	ジュベール症候群関連疾患	0
8	ハンチントン病	3	177	モワット・ウィルソン症候群	0
9	神経有棘赤血球症	0	178	ウィリアムズ症候群	0
10	シャルコー・マリー・トウース病	4	179	ATR-X症候群	0
11	重症筋無力症	68	180	クルーゾン症候群	0
12	先天性筋無力症候群	0	181	アペール症候群	1
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	50	182	ファイアー症候群	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	15	183	アントレー・ピクスラー症候群	0
15	封人体筋炎	0	184	コフィン・シリズ症候群	0
16	クロー・深瀬症候群	0	185	ロスマンド・トムソン症候群	0
17	多系統萎縮症	28	186	歌舞伎症候群	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	36	187	多脾症候群	1
19	ライソゾーム病	0	188	無脾症候群	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	189	鰓耳腎症候群	0
21	ミトコンドリア病	2	190	ウェルナー症候群	0
22	もやもや病	13	191	コケイン症候群	0
23	プリオン病	1	192	ブラダー・ウィリ症候群	1
24	亜急性硬化性全脳炎	0	193	ソトス症候群	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	194	ヌーナン症候群	1
26	HTLV-1関連脊髄症	0	195	ヤング・シン普森症候群	0
27	特発性基底核石灰化症	0	196	1p36欠失症候群	0
28	全身性アミロイドーシス	5	197	4p欠失症候群	0
29	ウルリツヒ病	0	198	5p欠失症候群	0
30	遠位型ミオパチー	0	199	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
31	ベスレムミオパチー	0	200	アンジェルマン症候群	0
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	201	スミス・マギニス症候群	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	202	22q11.2欠失症候群	0
34	神経線維腫症	7	203	エマヌエル症候群	0
35	天疱瘡	8	204	脆弱X症候群関連疾患	0
36	表皮水疱症	0	205	脆弱X症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	206	総動脈幹遺残症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	207	修正大血管転位症	2
39	中毒性表皮壊死症	0	208	完全大血管転位症	4
40	高安動脈炎	11	209	単心室症	3
41	巨細胞性動脈炎	0	210	左心低形成症候群	0
42	結節性多発動脈炎	4	211	三尖弁閉鎖症	35
43	顕微鏡的多発血管炎	91	212	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	22	213	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	214	ファロー四徴症	19
46	悪性関節リウマチ	6	215	両大血管右室起始症	5
47	バージャー病	0	216	エプスタイン病	5
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	217	アルポート症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	228	218	ギャロウェイ・モワト症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	0	219	急速進行性糸球体腎炎	35
51	全身性強皮症	43	220	抗糸球体基底膜腎炎	8
52	混合性結合組織病	25	221	一次性ネフローゼ症候群	6
53	シェーグレン症候群	145	222	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
54	成人スチル病	17	223	紫斑病性腎炎	0
55	再発性多発軟骨炎	9	224	先天性腎性尿崩症	0
56	ペーチェット病	22	225	間質性膀胱炎(ハンナ型)	7
57	特発性拡張型心筋症	66	226	オスラー病	9
58	肥大型心筋症	27	227	閉塞性細気管支炎	0
59	拘束型心筋症	0	228	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7
60	再生不良性貧血	16	229	肺胞低換気症候群	0
61	自己免疫性溶血性貧血	12	230	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	231	カーニー複合	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

63	特発性血小板減少性紫斑病	41	232	ウォルフラム症候群	0
64	血栓性血小板減少性紫斑病	5	233	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
65	原発性免疫不全症候群	4	234	副甲状腺機能低下症	12
66	IgA腎症	0	235	偽性副甲状腺機能低下症	0
67	多発性嚢胞腎	0	236	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
68	黄色靱帯骨化症	2	237	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1
69	後縦靱帯骨化症	8	238	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1
70	広範脊柱管狭窄症	6	239	フェニルケトン尿症	0
71	特発性大腿骨頭壊死症	0	240	高チロシン血症1型	0
72	下垂体性ADH分泌異常症	0	241	高チロシン血症2型	0
73	下垂体性TSH分泌亢進症	0	242	高チロシン血症3型	0
74	下垂体性PRL分泌亢進症	0	243	メープルシロップ尿症	0
75	クッシング病	6	244	プロピオン酸血症	2
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0	245	メチルマロン酸血症	0
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2	246	イソ吉草酸血症	0
78	下垂体前葉機能低下症	0	247	グルコーストランスポーター1欠損症	0
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	48	248	グルタル酸血症1型	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0	249	グルタル酸血症2型	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1	250	尿素サイクル異常症	0
82	先天性副腎低形成症	1	251	リジン尿性蛋白不耐症	0
83	アジソン病	25	252	先天性葉酸吸収不全	0
84	サルコイドーシス	34	253	ポルフィリン症	4
85	特発性間質性肺炎	15	254	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
86	肺動脈性肺高血圧症	15	255	筋型糖原病	0
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0	256	肝型糖原病	0
88	慢性血栓性肺高血圧症	14	257	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
89	リンパ管筋腫症	4	258	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
90	網膜色素変性症	23	259	シトステロール血症	0
91	バッド・キアリ症候群	0	260	タンジール病	0
92	特発性門脈圧亢進症	1	261	原発性高カイロミクロン血症	3
93	原発性胆汁性胆管炎	39	262	脳腫瘍	0
94	原発性硬化性胆管炎	6	263	無βリポタンパク血症	0
95	自己免疫性肝炎	29	264	脂肪萎縮症	0
96	クローン病	69	265	家族性地中海熱	12
97	潰瘍性大腸炎	94	266	高IgD症候群	0
98	好酸球性消化管疾患	1	267	中條・西村症候群	0
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2	268	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0	269	慢性再発性多発性骨髄炎	0
101	腸管神経節細胞減少症	0	270	強直性脊椎炎	6
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0	271	進行性骨化性線維異形成症	0
103	CFC症候群	0	272	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
104	コステロ症候群	0	273	骨形成不全症	2
105	チャージ症候群	0	274	タナトフォリック骨異形成症	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	1	275	軟骨無形成症	2
107	若年性特発性関節炎	5	276	リンパ管腫症/ゴーハム病	9
108	TNF受容体関連周期性症候群	0	277	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
109	非典型溶血性尿毒症症候群	0	278	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	4
110	ブラウ症候群	0	279	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
111	先天性ミオパチー	0	280	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	6
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	281	先天性赤血球形成異常性貧血	0
113	筋ジストロフィー	2	282	後天性赤芽球癆	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	283	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	284	ファンコニ貧血	0
116	アトピー性脊髄炎	2	285	遺伝性鉄芽球性貧血	0
117	脊髄空洞症	30	286	エプスタイン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤	0	287	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
119	アイザックス症候群	0	288	クロンカイト・カナダ症候群	1
120	遺伝性ジストニア	0	289	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
121	神経フェリチン症	0	290	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	291	総排泄腔外反症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	292	総排泄腔遺残	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	293	先天性横隔膜ヘルニア	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	294	乳幼児肝巨大血管腫	0
126	ペリー症候群	0	295	胆道閉鎖症	1
127	前頭側頭葉変性症	4	296	アラジール症候群	1
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	297	遺伝性膀胱炎	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	3	298	嚢胞性線維症	0
130	先天性無痛無汗症	0	299	IgG4関連疾患	49
131	アレキサンダー病	0	300	黄斑ジストロフィー	1
132	先天性核上性球麻痺	0	301	レーベル遺伝性視神経症	0
133	メビウス症候群	0	302	アッシャー症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	303	若年発症型両側性感音難聴	0
135	アイカルディ症候群	0	304	遷発性内リンパ水腫	0
136	片側巨脳症	0	305	好酸球性副鼻腔炎	58
137	限局性皮質異形成	0	306	カナバン病	0
138	神経細胞移動異常症	0	307	進行性白質脳症	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	308	進行性ミオクローヌステんかん	0
140	ドラベ症候群	0	309	先天異常症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	310	先天性三尖弁狭窄症	0
142	ミオクローニ-欠伸てんかん	2	311	先天性僧帽弁狭窄症	0
143	ミオクローニ-脱力発作を伴うてんかん	2	312	先天性肺静脈狭窄症	0
144	レノックス・ガストー症候群	4	313	左肺動脈右肺動脈起始症	0
145	ウエスト症候群	3	314	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
146	大田原症候群	0	315	カルニチン回路異常症	39
147	早期ミオクローニ-脳症	0	316	三頭酵素欠損症	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	317	シトリン欠損症	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	318	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
150	環状20番染色体症候群	0	319	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
151	ラスムッセン脳炎	0	320	非ケト-シス型高グリシン血症	0
152	PCDH19関連症候群	0	321	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	322	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	323	メチルグルタコン酸尿症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	324	遺伝性自己炎症疾患	5
156	レット症候群	1	325	大理石骨病	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	326	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
158	結節性硬化症	0	327	前眼部形成異常	0
159	色素性乾皮症	6	328	無虹彩症	0
160	先天性魚鱗癬	0	329	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	3
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	330	特発性多中心性キャッスルマン病	5
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0	331	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
163	特発性後天性全身性無汗症	22	332	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
164	眼皮膚白皮症	0	333	脳クレアチン欠乏症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	334	ネフロン癆	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	335	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
167	マルファン症候群	9	336	ホモシスチン尿症	0
168	エーラス・ダンロス症候群	6	337	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
169	メンケス病	0	338		
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	339		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	131
合計患者数(人)	2313

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療に係る基準	データ提出加算2
医療DX推進体制整備加算	入退院支援加算1
特定機能病院入院基本料(一般病棟・7対1入院基本料)	入退院支援加算3
特定機能病院入院基本料(精神病棟・7対1入院基本料)	入退院支援加算 地域連携診療計画加算
救急医療管理加算	入退院支援加算 入院時支援加算
超急性期脳卒中加算	認知症ケア加算2
診療録管理体制加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
医師事務作業補助体制加算2 15対1補助体制加算	精神疾患診療体制加算
急性期看護補助体制加算 25対1(看護補助者5割以上)	精神科急性期医師配置加算2のイ
急性期看護補助体制加算 夜間100対1	地域医療体制確保加算
急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算	救命救急入院料1
急性期看護補助体制加算 看護補助体制充実加算1	救命救急入院料1 精神疾患診断治療初回加算の「イ」
看護職員夜間配置加算 12対1配置加算1	救命救急入院料1 救急体制充実加算1
療養環境加算	救命救急入院料1 小児加算
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料1 早期栄養介入管理加算
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料4
無菌治療室管理加算2	救命救急入院料4 算定上限日数に係る施設基準
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	救命救急入院料4 精神疾患診断治療初回加算の「イ」
緩和ケア診療加算	救命救急入院料4 救急体制充実加算1
緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	救命救急入院料4 小児加算
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料4 早期栄養介入管理加算
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理料1
摂食障害入院医療管理加算	特定集中治療室管理料1 算定上限日数に係る施設基準
栄養サポートチーム加算	特定集中治療室管理料1 小児加算
医療安全対策加算1	特定集中治療室管理料1 早期栄養介入管理加算
感染対策向上加算1	ハイケアユニット入院医療管理料1
感染対策向上加算1 指導強化加算	総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料

患者サポート体制充実加算	総合周産期特定集中治療室管理料 新生児集中治療室管理料
重症患者初期支援充実加算	総合周産期特定集中治療室管理料 成育連携支援加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	新生児治療回復室入院医療管理料
ハイリスク妊娠管理加算	小児入院医療管理料1
ハイリスク分娩管理加算	小児入院医療管理料1 「注2」に規定する加算(保育士2名以上の場合)
術後疼痛管理チーム加算	小児入院医療管理料1 無菌治療管理加算2
後発医薬品使用体制加算1	小児入院医療管理料1 養育支援体制加算
バイオ後続品使用体制加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
病棟薬剤業務実施加算1	歯科外来診療医療安全対策加算2
病棟薬剤業務実施加算2	歯科外来診療感染対策加算4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	人工中耳植込術
糖尿病合併症管理料	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん性疼痛緩和指導管理料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
がん患者指導管理料イ	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん患者指導管理料ロ	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
がん患者指導管理料ハ	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
がん患者指導管理料ニ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
外来緩和ケア管理料	乳癌センチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	乳癌センチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
糖尿病透析予防指導管理料	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
婦人科特定疾患治療管理料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
一般不妊治療管理料	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
生殖補助医療管理料1	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料1	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料3	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
下肢創傷処置管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
院内トリアージ実施料	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
外来放射線照射診療料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
外来腫瘍化学療法診療料1	胸腔鏡下弁形成術
外来腫瘍化学療法診療料1 連携充実加算	胸腔鏡下弁置換術
外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	経カテーテル大動脈弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)

療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	経皮的僧帽弁クリップ術
がん治療連携計画策定料	不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	経皮的中隔心筋焼灼術
ハイリスク妊産婦連携指導料2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
肝炎インターフェロン治療計画料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
薬剤管理指導料	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
医療機器安全管理料1	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
医療機器安全管理料2	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
救急患者連携搬送料	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
染色体検査の注2に規定する基準	補助人工心臓
骨髄微小残存病変量測定	経皮的下肢動脈形成術
BRCA1/2遺伝子検査 腫瘍細胞を検体とするもの	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
BRCA1/2遺伝子検査 血液を検体とするもの	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
がんゲノムプロファイリング検査	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
先天性代謝異常症検査	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下胃縮小術

遺伝性腫瘍カウンセリング加算	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
胎児心エコー法	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
ヘッドアップティルト試験	体外衝撃波胆石破碎術
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下肝切除術
光トポグラフィー	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳波検査判断料1	生体部分肝移植術
神経学的検査	体外衝撃波膵石破碎術
補聴器適合検査	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
全視野精密網膜電図	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内服・点滴誘発試験	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
画像診断管理加算4	内視鏡的小腸ポリープ切除術
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
冠動脈CT撮影加算	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
血流予備量比コンピューター断層撮影	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
外傷全身CT加算	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
心臓MRI撮影加算	同種死体腎移植術
乳房MRI撮影加算	生体腎移植術
頭部MRI撮影加算	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来化学療法加算1	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
無菌製剤処理料	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	人工尿道括約筋植込・置換術
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰莖手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 急性期リハビリテーション加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算	腹腔鏡下仙骨腫固定術

脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 急性期リハビリテーション加算	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ) 急性期リハビリテーション加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算	体外式膜型人工肺管理料
運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 急性期リハビリテーション加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 初期加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 急性期リハビリテーション加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
集団コミュニケーション療法料	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
経頭蓋磁気刺激療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
認知療法・認知行動療法1	輸血管理料Ⅰ
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	輸血適正使用加算
医療保護入院等診療料	貯血式自己血輸血管理体制加算
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
硬膜外自家血注入	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
エタノールの局所注入(甲状腺)	麻酔管理料(Ⅰ)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	麻酔管理料(Ⅱ)
人工腎臓	周術期薬剤管理加算
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	放射線治療専任加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	外来放射線治療加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	高エネルギー放射線治療
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	一回線量増加加算
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	強度変調放射線治療(IMRT)
ストーマ合併症加算	画像誘導放射線治療(IGRT)
センチネルリンパ節加算	定位放射線治療
皮膚移植術(死体)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	画像誘導密封小線源治療加算
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	病理診断管理加算2

骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	悪性腫瘍病理組織標本加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	歯科治療時医療管理料
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	有床義歯咀嚼機能検査1のイ
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
椎間板内酵素注入療法	有床義歯咀嚼機能検査2のイ
緊急穿頭血腫除去術	有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	精密触覚機能検査
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	歯科口腔リハビリテーション料2
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	光学印象
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	歯科技工加算1及び2
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
角結膜悪性腫瘍切除術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
角膜移植術(内皮移植加算)	クラウン・ブリッジ維持管理料
羊膜移植術	歯科矯正診断料
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	看護職員処遇改善評価料63
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	外来・在宅ベースアップ評価料(I)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
網膜再建術	入院ベースアップ評価料79
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	マクロファージ吸着物質による牛結核菌BCGの抗腫瘍効果増強と副作用減弱法の開発	能見 勇人	血液浄化センター	910,000	補助 日本学術振興会
2	NAD+ (ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド)による新規癌免疫療法の研究開発	上原 博史	腎泌尿器外科	390,000	補助 日本学術振興会
3	癌選択的な標的粒子線治療”硼素中性子捕捉療法(BNCT)”、および”血流塞栓膀胱動脈選択的動脈内投与方法(BOAI法)”併用による、新規臓器温存治療の開発	東 治人	腎泌尿器外科	10,000,000	補助 (公財)鈴木謙三記念医科学応用研究財団
4	がん化学放射線療法再発症例における腫瘍合成致死誘導治療法の確立	小村 和正	腎泌尿器外科	3,120,000	補助 日本学術振興会
5	進行膀胱癌(転移を含む)に対するPDL1抗体併用硼素中性子補足療法の治療効果	東 治人	腎泌尿器外科	650,000	補助 日本学術振興会
6	前立腺がんにおけるCRISPR/Cas9スクリーニングによる新規ターゲット遺伝子の同定	辻野 拓也	腎泌尿器外科	1,430,000	補助 日本学術振興会
7	変異SETD2の機能喪失メカニズムの解析と腎癌に対する免疫療法への応用	稲元 輝生	腎泌尿器外科	910,000	補助 日本学術振興会
8	包括的網羅解析によるPARP阻害剤薬剤耐性メカニズムの解明	辻野 拓也	腎泌尿器外科	3,380,000	補助 日本学術振興会
9	膀胱癌放射線化学療法耐性克服の治療戦略開発	辻野 拓也	腎泌尿器外科	2,000,000	補助 (公財)上原記念生命科学財団
10	うつ病へのrTMS治療の機序を解明し効果予測指標を確立する包括的神経生理学的研究	今津 伸一	精神神経科	130,000	補助 日本学術振興会
11	マインドフルネスへの経頭蓋直流刺激tDCSによるオーギュメンテーション法の確立	西田 圭一郎	精神神経科	1,235,000	補助 日本学術振興会
12	思春期青年期の性別違和感一性別違和感尺度のカットオフ値の設定と臨床支援への活用一	木下 真也	精神神経科	78,000	補助 日本学術振興会
13	性特異的に確立されるエピゲノム状態のゆらぎに基づく性別違和バイオマーカーの開発	金沢 徹文	精神神経科	162,500	補助 日本学術振興会
14	成人期PTSDに対するEMDRの無作為割付による効果検証に関する研究	金沢 徹文	精神神経科	26,000	補助 日本学術振興会
15	「高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験」(PEMA-CORE study)	星賀 正明	循環器内科	220,000	委託 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
16	原発性高カイトミクロン血症を対象としたアンチセンス医薬の開発	斯波 真理子	循環器内科	66,194,700	補助 橋渡し研究プログラム・シーズF(北海道大学拠点)
17	シングルセル分子病理解析による心臓サルコイドーシスのバイオマーカー同定と治療標的探索	寺崎 文生 藤田 修一	循環器内科	650,000	補助 難治性疾患実用化研究事業
18	ホモ接合型CETP欠損症と加齢黄斑変性症の関係を調査するための観察研究	斯波 真理子	循環器内科	1,056,000	委託 株式会社Ascent Development Services
19	マイクロ波レーダーを用いた非侵襲による肺動脈圧変動の連続推定	星賀 正明	循環器内科	130,000	補助 日本学術振興会
20	急性心不全患者における、新規腎障害バイオマーカーAIMの臨床的意義に関する検討	前田 大智	循環器内科	2,080,000	補助 日本学術振興会
21	急性心不全患者における潜在的鉄欠乏の実態解明	津田 浩佑	循環器内科	1,430,000	補助 日本学術振興会
22	原発性脂質異常症に関する調査研究	斯波 真理子	循環器内科	12,220,000	補助 難治性疾患政策研究事業
23	循環器疾患診療実態調査(JROAD)のデータベースによる心臓サルコイドーシスの診療実態調査と二次調査に基づく診断・治療プロトコルの策定に関する研究(MYSTICS)	藤田 修一	循環器内科	30,000	委託 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
24	心臓サルコイドーシス患者における診療の実態調査、および治療不応例・再発例に関する新規予測プログラムの開発と前向きレジストリによる検証	寺崎 文生	循環器内科	455,000	補助 難治性疾患実用化研究事業
25	心不全患者に潜む骨粗鬆症の臨床的特徴:骨粗鬆症が拡張能に及ぼすメカニズムの解明	坂根 和志	循環器内科	390,000	補助 日本学術振興会

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
26	心不全増悪入院患者におけるアンジオテンシン・ネプリライシン阻害薬の研究(PREMIER study)	神崎 裕美子	循環器内科	400,000	委託 佐賀大学医学部附属病院
27	薬剤溶出性バルーン治療での長期開存は可能か？数値流体解析による再狭窄因子の探索	山内 洋平	循環器内科	1,300,000	補助 日本学術振興会
28	CyTOFを用いた集中治療後症候群の病態解明と予防法開発に向けた基盤研究	山川 一馬	救急医療部	130,000	補助 日本学術振興会
29	TITINを軸とした重症病態における筋力低下に関連する筋実質障害の解析	山川 一馬	救急医療部	1,300,000	補助 日本学術振興会
30	ドネペジルのドラッグリポジショニングによるCOVID-19 後遺症治療薬の開発－医師主導臨床治験－	山川 一馬	救急医療部	20,150,000	補助 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
31	マイクロ流路設計技術を応用した細胞分離デバイスの精度評価	山川 一馬	救急医療部	1,200,000	委託 京セラ株式会社
32	救急集中治療患者の血液凝固線溶異常の病態解明	山川 一馬	救急医療部	2,400,000	委託 藤森工業株式会社
33	好中球の異質性が関与する外傷後二次性感染症の病態解明と治療法開発に向けた基盤研究	山川 一馬	救急医療部	130,000	補助 日本学術振興会
34	重症外傷後ARDSに対し安全にECMO導入するための凝血学的解析による基礎的検討	田中 克	救急医療部	2,470,000	補助 日本学術振興会
35	重症患者の長期予後改善を見据えたデータベースの構築	畠山 淳司	救急医療部	910,000	補助 日本学術振興会
36	重度侵襲後の遷延性免疫不全PIICSにおける骨髄由来免疫抑制細胞の関与	三嶋 隆之	救急医療部	1,430,000	補助 日本学術振興会
37	体外循環患者のフォンウィルブランド因子と線溶解解析による出血管理アルゴリズムの開発	雨宮 優	救急医療部	1,820,000	補助 日本学術振興会
38	敗血症性ショックの蘇生における個別化戦略:多施設ランダム化試験とメタアナリシス	山川 一馬	救急医療部	130,000	補助 日本学術振興会
39	敗血症病態における血管内皮グリコカリックス障害の修復促進因子の解明と治療戦略構築	久宗 遼	救急医療部	1,560,000	補助 日本学術振興会
40	肺炎に合併した播種性血管内凝固症候群(DIC)に対するAT製剤の有効性の検討	山川 一馬	救急医療部	8,855,088	委託 一般社団法人日本血液製剤機構
41	病態に強固な関連がある敗血症新規サブクラス分類の開発	山川 一馬	救急医療部	780,000	補助 日本学術振興会
42	ヨウ素を担持したチタン製歯科用ショート インプラントの開発に関わる研究	植野 高章	歯科・口腔外科	550,000	委託 中部大学(株)プラトンジャパン
43	ヨウ素処理による抗菌性を付与した新しいチタンデバイスの開発	植野 高章	歯科・口腔外科	50,000	補助 日本学術振興会
44	ヨウ素処理による抗菌性を付与した新しいチタンデバイスの開発	井上 和也	歯科・口腔外科	65,000	補助 日本学術振興会
45	胃癌患者の口腔細菌叢とIgA抗体応答性	小越 菜保子	歯科・口腔外科	1,690,000	補助 日本学術振興会
46	高精度に適合する移植用ハニカム型三次元積層造形チタン人工骨の構造解析	井上 和也	歯科・口腔外科	1,170,000	補助 日本学術振興会
47	造血管腫瘍に対する化学療法による口腔粘膜炎と口腔細菌叢の関連	越智 文子	歯科・口腔外科	910,000	補助 日本学術振興会
48	体内埋め込み型フルカスタム人工骨の生体内最適化に向けた開発と研究	植野 高章	歯科・口腔外科	1,040,000	補助 日本学術振興会
49	超音波画像データを用いた乳児の哺乳運動に関する解析研究	藤原 久美子	歯科・口腔外科	500,000	委託 ビジョン株式会社 富山大学工学部
50	免疫学的アプローチによるびまん性浸潤口腔扁平上皮癌の制御に関する基礎的研究	藤原 久美子	歯科・口腔外科	65,000	補助 日本学術振興会
51	骨形成能と抗菌力を有するバイオアクティブセメントの開発	山本 佳代子	歯科・口腔外科	1,300,000	補助 日本学術振興会
52	日本とシンガポールの国際比較による2型糖尿病患者の口腔細菌叢研究	大森 実知	歯科・口腔外科	1,950,000	補助 日本学術振興会

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
53	Impression mold (IM)画像の自動解析システム(AAMS;Assessment for skin Microstructure and Sweating)を用いたアトピー性皮膚炎患者レジストリの発汗機能に関する解析研究	福永 淳	皮膚科	200,000	補助 広島大学ナノデバイス研究所 (生体医歯工学共同研究拠点)
54	サンバーン増強型の色素性乾皮症を対象とした既存薬による新規治療の効果と安全性を評価する医師主導治験	森脇 真一	皮膚科	1,040,000	補助 難治性疾患実用化研究事業
55	神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者QOL向上のための研究	森脇 真一	皮膚科	1,000,000	補助 難治性疾患政策研究事業
56	皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	森脇 真一	皮膚科	950,000	補助 難治性疾患政策研究事業
57	cT1-2NO-2胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験(JCOG1907)	李 相雄	一般・消化器・小児外科	60,000	委託 静岡県立静岡がんセンター
58	In vivo薬物動態・安全性評価支援と生体模倣評価系の高度化	谷口 高平	一般・消化器・小児外科	4,875,000	補助 生命科学・創薬研究支援基盤事業
59	NASHにおけるKupffer細胞内糖代謝変化と分極化の関連性の解明とmicroRNA創薬	猪俣 陽介	一般・消化器・小児外科	1,820,000	補助 日本学術振興会
60	PTBP1を標的にしたmicroRNAによる癌特異的エネルギー代謝機構の解明	内山 和久	一般・消化器・小児外科	1,560,000	補助 日本学術振興会
61	ブルスルー法は直腸癌のストーマレス肛門温存手術を実現可能にするか?	濱元 宏喜	一般・消化器・小児外科	65,000	補助 日本学術振興会
62	メタボローム解析によるKupffer細胞代謝を標的としたNASH肝細胞癌の治療	廣川 文鋭	一般・消化器・小児外科	1,560,000	補助 日本学術振興会
63	胃切除後障害の改善に向けた網羅的細菌叢変化の検討	今井 義朗	一般・消化器・小児外科	1,300,000	補助 日本学術振興会
64	患者由来がん幹細胞培養を基盤とした革新的個別化医療開発	谷口 高平	一般・消化器・小児外科	500,500	補助 革新的医療技術研究開発推進事業(産学官共同型)
65	患者由来がん幹細胞培養を基盤とした革新的個別化医療開発	谷口 高平	一般・消化器・小児外科	1,926,842	委託 京ダイアグノスティクス株式会社
66	消化管神経内分泌細胞癌におけるDLL3内包EVsのEMT誘導メカニズムの解明	松尾 謙太郎	一般・消化器・小児外科	1,430,000	補助 日本学術振興会
67	進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験	李 相雄	一般・消化器・小児外科	130,000	補助 革新的がん医療実用化研究事業
68	難治性固形癌に対する癌抑制型microRNA補充療法の実現に向けた治療戦略の構築	谷口 高平	一般・消化器・小児外科	5,090,000	補助 日本学術振興会
69	非アルコール性脂肪肝におけるIL-6トランスシグナルを介した類洞内皮細胞の役割	川口 直	一般・消化器・小児外科	1,430,000	補助 日本学術振興会
70	「エンハーツ点滴静注用100mg特定使用成績調査(乳癌)」患者を登録対象としたトラスツズマブ デルクステカン中止後の後治療に関するコホート研究	岩本 充彦	乳腺・内分泌外科	550,000	委託 イーピーエス株式会社
71	HER2陽性乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第II相比較試験(ERICA)(WJOG14320B)	岩本 充彦	乳腺・内分泌外科	143,000	委託 特定非営利活動法人 西日本がん研究機構
72	Haloを用いた顔面手術におけるナビゲーションデバイスの開発	塗 隆志	形成外科	1,000,000	補助 (公財)SBC医学振興財団
73	エリスロポイエチンのケロイド形成への関与とエリスロポイエチン受容体拮抗物質によるケロイド膠原質の崩壊およびケロイド特性の消失ーケロイドの原因解明とその治療に関する研究ー	浅香 明紀	形成外科	1,000,000	補助 (公財)SBC医学振興財団
74	頭蓋冠幹細胞ニッチと骨修復時のメカノシグナルによる細胞動態制御	上田 晃一	形成外科	130,000	補助 日本学術振興会
75	頭蓋冠幹細胞ニッチと骨修復時のメカノシグナルによる細胞動態制御	塗 隆志	形成外科	390,000	補助 日本学術振興会
76	頭蓋縫合早期癒合におけるゴアテックス人工硬膜を用いた再癒合阻害の試み	塗 隆志	形成外科	390,000	補助 日本学術振興会
77	口唇口蓋裂に関する実態把握、及び口唇口蓋裂を含めた育成医療の疾患全体の実態の推定を行う手法の検討のための研究	上田 晃一	形成外科	105,000	補助 厚生労働行政推進調査事業費
78	口唇口蓋裂に関する実態把握、及び口唇口蓋裂を含めた育成医療の疾患全体の実態の推定を行う手法の検討のための研究	梅田 千鶴	形成外科	105,000	補助 厚生労働行政推進調査事業費
79	Role of intermediate water in relief of post-surgical intrapericardial adhesion by Coseal	根本 慎太郎	心臓血管外科・小児心臓血管外科	3,150,000	委託 バクスター・ジャパン株式会社

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
80	ビーグル犬を用いた血管壁への心・血管修復パッチの埋植試験:開発品と既存品の比較評価	根本 慎太郎	心臓血管外科・小児心臓血管外科	4,704,000	委託 帝人株式会社 再生医療・埋込医療機器部門 インプランタブルメディカルデバイス開発部
81	患者iPS細胞に由来するMarfan症候群血管細胞モデルの構築と治療薬の探索	大門 雅広	心臓血管外科・小児心臓血管外科	1,690,000	補助 日本学術振興会
82	新規心臓血管修復パッチのイヌ血管壁埋植試験の遠隔期評価	根本 慎太郎	心臓血管外科・小児心臓血管外科	1,174,829	委託 帝人株式会社
83	がん患者のオピオイド不応の神経障害性疼痛への標準的薬物療法の開発:国際共同試験ならびに普及実装に向けた研究	藤阪 保仁 中村 敬彦	呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	130,000	補助 革新的がん医療実用化研究事業
84	胸水合併EGFR遺伝子変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブの単群第II相試験 -RELAY-Effusion-	藤阪 保仁	呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	165,000	委託 公立大学法人大阪
85	劇症1型糖尿病の総合解析 免疫チェックポイント阻害薬関連発症例に着目した検討	今川 彰久	糖尿病代謝・内分泌内科	1,300,000	補助 日本学術振興会
86	日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開に関する研究	花房俊昭	糖尿病代謝・内分泌内科	4,600,000	補助 国際医療研究開発事業
87	パーキンソン病モデルマウスにおけるNOP受容体拮抗薬の鎮痛効果の検証	北埜 学	集中治療部	1,040,000	補助 日本学術振興会
88	レセプト情報・特定健診等情報データベースを用いた集中治療後症候群の発症因子の検討	下山 雄一郎	集中治療部	130,000	補助 日本学術振興会
89	Low axial force設計Dumbbell head型SEMS(Self-expandable metallic stent)を用いた非切除腺癌による遠位胆道狭窄に対する金属ステント(fully covered vs uncovered)の有用性に関する多施設共同無作為化比較試験	小倉 健	消化器内科	148,500	委託 有限会社メディカル・リサーチ・サポート
90	NSAIDs起因性小腸粘膜傷害におけるオートファジーの関与と治療戦略の構築	竹内 利寿	消化器内科	1,300,000	補助 日本学術振興会
91	ヒトiPS細胞を用いたMEFV遺伝子関連腸炎の疾患モデリングおよび新規治療標的の探索	柿本 一城	消化器内科	1,430,000	補助 日本学術振興会
92	胃上皮性腫瘍病変の存在診断における、第三世代狭帯域光観察および白色光観察のランダム化比較第III相試験	岩坪 太郎	消化器内科	300,000	委託 オリンパス株式会社
93	内視鏡的乳頭筋切開術後出血に対する吸収性局所止血材とバルーン圧迫法の止血成功率を比較する多施設共同無作為化群間比較試験	小倉 健	消化器内科	1,584,000	委託 株式会社スリー・ディー・マトリックス
94	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	中村 志郎	消化器内科	350,000	補助 難治性疾患政策研究事業
95	日本の実臨床における患者報告アウトカム(PRO)を用いたウステキスマブ導入後における潰瘍性大腸炎患者の症状改善効果の検討	柿本 一城	消化器内科	165,000	委託 エイツーヘルスケア株式会社
96	脳腫瘍に対する中性子捕捉療法における新規ホウ素化合物の開発とドラッグデリバリー	辻野 晃平	脳神経外科・脳血管内治療科	100,000	補助 物質・デバイス領域共同研究拠点(大阪大学産業科学研究所)
97	BNCTを実施した悪性神経膠腫・悪性髄膜腫の分子情報に基づく後方視的予後解析	柏木 秀基	脳神経外科・脳血管内治療科	1,430,000	補助 日本学術振興会
98	バイオインフォマティクスの手法による放射線脳壊死関連M2マクロファージの機能解析	宮武 伸一	脳神経外科・脳血管内治療科	130,000	補助 日本学術振興会
99	悪性神経膠腫・悪性髄膜腫において新規分子標的となる転写キメラの同定とその機能解析	野々口 直助	脳神経外科・脳血管内治療科	390,000	補助 日本学術振興会
100	悪性髄膜腫における浸潤能とACTC1の関連、およびその分子機構の解明	矢木 亮吉	脳神経外科・脳血管内治療科	780,000	補助 日本学術振興会
101	加速器ホウ素中性子捕捉療法に適した新しい中性子周辺線量当量率モニタの開発	川端 信司	脳神経外科・脳血管内治療科	260,000	補助 日本学術振興会
102	原発性悪性脳腫瘍患者に対する標準治療成績を調査するコホート研究	野々口 直助	脳神経外科・脳血管内治療科	13,200	委託 エイツーヘルスケア株式会社
103	新規BNCT治療システムによる再発難治性高悪性度髄膜腫に対する第II相医師主導試験に関する研究開発(フォローアップ)	宮武 伸一	脳神経外科・脳血管内治療科	10,400,000	補助 革新的がん医療実用化研究事業
104	脊髄神経膠腫に対するホウ素中性子捕捉療法の確立に向けた基盤研究	高見 俊宏	脳神経外科・脳血管内治療科	1,170,000	補助 日本学術振興会
105	中性子捕捉療法におけるアミノ酸トランスポーターを介した薬剤相互作用と生物学的効果	斯波 宏行	脳神経外科・脳血管内治療科	1,430,000	補助 日本学術振興会

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
106	特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会データベースを用いた観察研究－Pipeline Flex フローダイバーターシステム－	平松 亮	脳神経外科・脳血管内治療科	20,000	委託 特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会
107	特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会データベースを用いた観察研究－Surpass Streamline フローダイバーター システム－	平松 亮	脳神経外科・脳血管内治療科	20,000	委託 特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会
108	難治性悪性脳腫瘍の中性子捕捉療法薬剤の開発 (分担課題名)担がんモデルラットでの薬物動態試験・薬効評価試験	川端 信司	脳神経外科・脳血管内治療科	3,900,000	補助 橋渡し研究プログラム preF(慶応義塾大学 長谷川奉延)
109	脳腫瘍に対するマルチターゲット型中性子捕捉療法の実装に向けた基盤構築	川端 信司	脳神経外科・脳血管内治療科	7,540,000	補助 日本学術振興会
110	膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化	川端 信司	脳神経外科・脳血管内治療科	390,000	補助 革新的がん医療実用化研究事業
111	間質性肺炎に対する新規マクロファージ抑制タンパク質の抗炎症・線維化作用の検討	武内 徹	リウマチ膠原病内科	1,300,000	補助 日本学術振興会
112	全身性強皮症に対する新規生物製剤 hMIKO-1の有効性検証とその機序の解明	小谷 卓矢	リウマチ膠原病内科	1,170,000	補助 日本学術振興会
113	ホウ素中性子捕捉療法治療効果予測因子としての耳下腺癌組織型別LAT-1発現解析	菊岡 祐介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補助 日本学術振興会

計 113 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される 主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入す

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nishizawa Y, Yamanashi T, Saito T, Marra P, et al.	精神神経科	Bispectral EEG (BSEEG) Algorithm Captures High Mortality Risk Among 1,077 Patients: Its Relationship to Delirium Motor Subtype.	Am J Geriatr Psychiatry. 2023 Sep;31(9):704-715	Original Article
2	Hirano H, Fujiwara Y, Maenosono R, 他	血液浄化センター	Usefulness of Dietary Salt Restriction in Kidney Transplant Recipients: Analysis of Blood Pressure Levels Depending on the Differences in the Levels of Salt Intake.	Transplant Proc. 2023.05	Original Article
3	Inamoto T, Sato R, Matsushita Y, 他	腎泌尿器外科	Optimal Time Point for Evaluation of Response to Pembrolizumab Treatment in Japanese Patients With Metastatic Urothelial Carcinoma.	Cancer Diagn Progn 2023.05	Original Article
4	Tsujino T, Tokushige S, Komura K, 他	腎泌尿器外科	Real-world survival outcome comparing abiraterone acetate plus prednisone and enzalutamide for nonmetastatic castration-resistant prostate cancer.	Cancer Medicine 2023.09	Original Article
5	Komura K, Tokushige S, Ishida M 他	腎泌尿器外科	Tertiary lymphoid structure and neutrophil-lymphocyte ratio coordinately predict outcome of pembrolizumab.	Cancer Science 2023.09	Original Article
6	Tsujino T, Komura K, Inamoto T, 他	腎泌尿器外科	Nephron-sparing ureteroscopic surgery vs. radical nephroureterectomy: comparable survival-outcomes in upper tract urothelial carcinoma.	World Journal of Urology 2023.11	Original Article
7	Komura K, Hirotsuna K, Tokushige S, 他	腎泌尿器外科	The Impact of FGFR3 Alterations on the Tumor Microenvironment and the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors in Bladder Cancer.	Molecular Cancer 2023.11	Original Article
8	Tsuda K, Maeda D, Kanzaki Y, et al.	循環器内科	Fibrosis-4 index identifies worsening renal function associated with adverse outcomes in acute heart failure.	ESC Heart Fail. 2023 Jun	Original Article
9	Maeda D, Kanzaki Y, Sakane K, et al.	循環器内科	Prognostic Impact of Multiple Drug Use at Discharge in Patients Hospitalized with Heart Failure.	Int Heart J. 2023 May	Original Article
10	Sakane K, Kanzaki Y, Okuno T, et al.	循環器内科	Left Atrial Remodeling Related to Disproportionately Low B-Type Natriuretic Peptide in Acute Heart Failure Patients with Atrial Fibrillation.	Am J Cardiol. 2023 Dec	Original Article
11	Maeda D, Kanzaki Y, Sakane K, et al.	循環器内科	Prognostic impact of a reduction in the fibrosis-4 index among patients hospitalized with acute heart failure.	Heart Vessels. 2023 Oct	Original Article
12	Hasegawa H, Ito T, Akamatsu K, et al.	循環器内科	Clinical significance of aortic spontaneous echo contrast in patients with nonvalvular atrial fibrillation.	Echocardiography. 2024 Jan	Original Article
13	Harada-Shiba M.	循環器センター	Impact of Familial Hypercholesterolemia Diagnosis in Real-World Data.	J Atheroscler Thromb. 2023 Oct	Review
14	Harada-Shiba M, Ohtake A, Sugiyama D, et al.	循環器センター	Guidelines for the Diagnosis and Treatment of Pediatric Familial Hypercholesterolemia 2022.	J Atheroscler Thromb. 2023 May	Others
15	Harada-Shiba M, Haruna S, Kogawa N.	循環器センター	Real-world safety and efficacy of lomitapide in homozygous familial hypercholesterolemia: interim report of special-use survey in Japan.	Future Cardiol. 2024 Feb	Review
16	Isoda S, Shimizu T, Suzuki T.	総合診療科	FRAMED: a framework facilitating insight problem solving.	Diagnosis (Berl). 2024 Feb 23. PMID: 38386688 DOI: 10.1515/dx-2023-0152.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
17	Tadayuki Hashimoto, Makoto Kikukaw.	総合診療科	Identifying teaching competencies for medical residents using a modified Delphi method.	Korean journal of medical education 36(1) 51-63 2024 Mar. PMID: 38462242 PMCID: PMC10925810 DOI: 10.3946/kjme.2024.284.	Original Article
18	Tokunaga Y, Majima N, Kitano M, Minami T.	麻酔科・ペインクリニック	Managing chronic pediatric pain with multidisciplinary approach: A case report of 11-year-old girl with palm pain.	Clin Pediatr Anesth 29: 52-55, 2023.	Case report
19	Noda Y, Majima N, Kitano M, Minami T.	麻酔科・ペインクリニック	Managing scoliosis-related myofascial pain with Kakkonto, Kampo medicine and silver spike point therapy, needleless electrical acupuncture.	Clin Pediatr Anesth 29: 61-65, 2023.	Case report
20	Noritaka Ushio, Takeshi Wada, Yuichiro Ono, et al	救急医療部	Sepsis-induced disseminated intravascular coagulation: an international estrangement of disease concept	Acute Med Surg. 2023 May 4	Original Article
21	Ryo Hisamune, Katsunori Mochizuki, Kazuma Yamakawa et al	救急医療部	Real-world evidence on disseminated intravascular coagulation from Japan	Acute Med Surg. 2023 Apr 9	Original Article
22	Koshi Ota , Masahiko Nitta, Tomonobu Komeya, et al	救急医療部	Influence of the COVID-19 Outbreak in Vulnerable Patients (Pediatric Patients, Pregnant Women, and Elderly Patients) on an Emergency Medical Service System: A Pre- and Post-	Medicina (Kaunas). 2024 Feb 19	Original Article
23	Ryo Hisamune, Mako Kobayashi, Karin Nakasato, et al	救急医療部	A meta-analysis and trial sequential analysis of randomised controlled trials comparing nonoperative and operative management of chest trauma with multiple rib fractures.	World J Emerg Surg. 2024 Mar 19	Original Article
24	Koshi Ota, Daisuke Nishioka, Emi Hamada , et al	救急医療部	Sites of blood collection and topical disinfectants associated with contaminated cultures: An ambidirectional cohort study. Journal of general and family medicine	J Gen Fam Med. 2023 Dec 17	Original Article
25	Koshi Ota, Hitoshi Kobata, Yoshisuke Hamada, et al	救急医療部	Anisocoria without extraocular muscle impairment due to moderate traumatic brain injury with midbrain contusion: a case report.	BMC Neurol. 2023 Jul 15	Original Article
26	Komori E, Kato-kogoe N, Imai Y, et al.	歯科・口腔外科	Changes in salivary microbiota due to gastric cancer resection and its relation to gastric fluid microbiota	Scientific Reports. 2023 Sep; 13: 15863 (オンライン)	Original Article
27	Kato-Kogoe N, Kamiya K, Sakaguchi S, et al.	歯科・口腔外科	Salivary Microbiota Associated with Peripheral Microvascular Endothelial Dysfunction	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2023 Jul; 30(7): 820-833	Original Article
28	Yoshikawa Y,Ueta M,Kinoshita S,et al.	眼科	Long-Term Benefits of Tear Exchangeable Limbal-Rigid Contact Lens Wear Therapy in Stevens-Johnson Syndrome Cases	Eye Contact Lens. 2023 Jun 1;49(6):247-253. doi: 10.1097/ICL.0000000000000989. Epub 2023 Apr 13.	Original Article
29	Fukiyama Y,Hirokawa T,Takai S,et al.	眼科	Involvement of Glycogen Synthase Kinase 3 β (GSK3 β) in Formation of Phosphorylated Tau and Death of Retinal Ganglion Cells of Rats Caused by Optic Nerve Crush	Curr Issues Mol Biol. 2023 Aug 22;45(9):6941-6957. doi: 10.3390/cimb45090438.	Original Article
30	Ishigooka G,Mizuno H,Oosuka S,et al.	眼科	Effects of Angiotensin Receptor Blockers on Streptozotocin-Induced Diabetic Cataracts	J Clin Med. 2023 Oct 19;12(20):6627. doi: 10.3390/jcm12206627.	Original Article
31	Yoshikawa Y,Yokoi N,Kusada Net al.	眼科	Eye Pain Caused by Epithelial Damage in the Central Cornea in Aqueous-Deficient Dry Eye	Diagnostics. 2023 Dec 22;14(1):30. doi: 10.3390/diagnostics14010030.	Original Article
32	Kentaro Matsuo,Shinya Urakawa,Matthew Symer他	一般・消化器外科	Iterative evaluation of novel access techniques for small bowel obstruction:combining image guided, percutaneous,and endoscopic methods	BMJ Surgery,Interventions, & Health Technologies.2023.05;5(1):e001510	Original Article
33	Masato Ota,Koji Komeda	一般・消化器外科	ASO author reflections: The prognostic value of preoperative serum markers and risk classification of patients with hepatocellular carcinoma	Annals of Surgical Oncology,2023.05;30(5):2816-2817	Others
34	Masato Ota,Koji Komeda,Hiroya Osaka他	一般・消化器外科	ASO visual abstract:the prognostic value of preoperative serum markers and risk classification for patients with hepatocellular carcinoma	Annals of Surgical Oncology,2023.05;30(5):2818-2819	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
35	Masato Ota,Koji Komeda,Hiroya Osaka他	一般・消化器外科	The prognostic value of preoperative serum markers and risk classification in patients with hepatocellular carcinoma	Annals of Surgical Oncology,2023.05;30(5):2807-2815	Original Article
36	Takafumi Shima,Asami Arita,Satoshi Sugimoto他	一般・消化器外科	Simultaneous colonic metastasis of advanced gastric cancer: a case report	Surgical Case Reports,2023.05;9(1):39	Case report
37	Takafumi Shima,Asami Arita,Satoshi Sugimoto他	一般・消化器外科	Feasibility and learning curve for robotic surgery in a small hospital: A retrospective cohort study	Medicine (Baltimore),2023.06;102(23):e34010	Original Article
38	Masato Ota,Mitsuhiro Asakuma,Kohei Taniguchi他	一般・消化器外科	Short-term outcomes of laparoscopic and open distal pancreatectomy using propensity-score analysis: a real-world retrospective cohort study	Annals of Surgery, 2023.10;278(4):e805-811	Original Article
39	Emiko Kono,Kohei Taniguchi,Keisuke Fukui他	一般・消化器外科	The ergonomic relationship between hand size and mesh fixation difficulty when using endoscopic hernia repair staplers based on a questionnaire survey	Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University,2023.12;69(1.2);13-19	Original Article
40	Jun Arima,Kohei Taniguchi,Nobuhiko Sugito他	一般・消化器外科	Antitumor effects of chemically modified miR-143 lipoplexes in a mouse model of pelvic colorectal cancer via myristoylated alanine-rich C kinase substrate downregulation	Molecular Therapy-Nucleic Acid,202312;34:102079	Original Article
41	Emiko Kono,KSachiyo Nomura,Takashi Sakamoto他	一般・消化器外科	Gender equity in surgical instruments: ergonomics of ring-handled forceps	Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies,2024.02;33(1):21-28	Original Article
42	Yoshiro Imai,Ryo Tanaka,Kentaro Matsuo他	一般・消化器外科	Oncological relevance of proximal gastrectomy in advanced gastric cancer of upper third of the stomach	Surgery Open Science, 2024.037;18:23-27	Original Article
43	Otsuki Y, Nuri T, Ueda K,et al.	形成外科	Surgical Assistant-friendly Breast Reconstruction Using a Head-mounted Wireless Camera with an Integrated LED Light as an Educational Tool.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023 Apr 24;11(4):	Others
44	Yumoto A, Otsuki Y,Ueda K,et al.	形成外科	Axillary accessory breast cancer reconstructed by a thoracodorsal artery perforator flap: A case report.	Medicine (Baltimore). 2023 May 12;102(19):	Case report
45	Asaka A, Kyutoku S, Ueda K,et al.	形成外科	Modified trilobed transposition flap for a distal nasal defect.	J Dermatol. 2023 Sep;50(9)	Original Article
46	Katayama M, Mitsuno D, Ueda K	形成外科	Clinical Application to Improve the "Depth Perception Problem" by Combining Augmented Reality and a 3D Printing Model.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023 Jul 6;11(7)	Original Article
47	Nuri T, Asaka A, Ueda K	形成外科	Secondary Reconstruction of Late Deformities of the Orbitozygomaticomaxillary Complex using a Halo Device.	J Craniofac Surg. 2023 Oct 1;34(7)	Case report
48	Nuri T, Asaka A, Ueda K,et al.	形成外科	Modified Preparatory Intravascular Stenting Technique in Super-microsurgical Lymphaticovenular Anastomosis for the Treatment of Lymphedema.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023 Oct 4;11(10)	Others
49	Nuri T, Jin D, Ueda K,et al.	形成外科	Tryptase-Positive Mast Cells Promote Adipose Fibrosis in Secondary Lymphedema through PDGF.	Curr Issues Mol Biol. 2023 Sep 30;45(10)	Original Article
50	Nuri T, Kawabata E, Ueda K	形成外科	Orbital Roof Decompression and Transposition of Orbital Contents for Treatment of Orbital Deviation Associated With Fibrous Dysplasia.	J Craniofac Surg. 2023 Nov 13	Case report
51	Ueda K, Sugita N, Akamatsu J,et al.	形成外科	Congenital Nostril Stenosis with a Horseshoe-like Shape.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023 Nov 27;11(11)	Case report
52	Otsuki Y, Nuri T, Ueda K	形成外科	Immediate lymphatic reconstruction for breast cancer-related lymphedema: current status and challenges.	J Gland Surg. 2024 Mar 27;13(3)	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
53	Akira Mima Toshinori Yasuzawa	腎臓内科	Role of insulin signaling and its associated signaling in glomerulus for diabetic kidney disease.	Histology and histopathology 38(5) 18543-18543 2022年11月3日	Review
54	Akira Mima	腎臓内科	Safety and Efficacy of Ipeglimin for Type 2 Diabetes in Patients Undergoing Dialysis.	In vivo 37(3) 1334-1338 2023年	Original Article
55	Akira Mima, Rina Lee, Ami Murakami, Hidemasa Gotoda 他	腎臓内科	Case Report: IgG4-related kidney disease complicated by interstitial pneumonia.	F1000Research 12 1045-1045 2023年	Case report
56	Akira Mima, Shinji Lee	腎臓内科	IgA nephropathy after COVID-19 vaccination and analysis of reported cases.	Heliyon 9(6) e17206 2023年6月(オンライン)	Original Article
57	Akira Mima, Atsuo Nomura, Takeshi Fujii	腎臓内科	Current findings on the efficacy of incretin-based drugs for diabetic kidney disease: A narrative review.	Biomedicine & pharmacotherapy = Biomedicine & pharmacotherapie 165 115032-115032 2023年6月16日	Review
58	Akira Mima, Rina Lee, Ami Murakami他	腎臓内科	Effect of finerenone on diabetic kidney disease outcomes with estimated glomerular filtration rate below 25 mL/min/1.73 m ² .	Metabolism open 19 100251-100251 2023年9月	Original Article
59	Akira Mima, Sayumi Kidooka, Takahiro Nakamoto他	腎臓内科	Effects of Oral Semaglutide on Renal Function in Diabetic Kidney Disease: A Short-term Clinical Study.	In vivo 38(1) 308-312 2024年	Original Article
60	Akira Mima, Hidemasa Gotoda, Shinji Lee	腎臓内科	Safety and Efficacy of Dotinurad on Uric Acid in Patients With Chronic Kidney Disease With Estimated Glomerular Filtration Rate Below 25 mL/Min/1.73 m ² .	Cureus 16(3) e57362 2024年3月(オンライン)	Original Article
61	Suzuki A, Uchida H, Ozawa H, et al	心臓血管外科・小児心臓血管外科	Isolated left hepatic vein draining into the coronary sinus: a rare anomaly encountered during mitral valve surgery	Eur Heart J Case Rep. 2023 May 17;7(5):ytad242. (オンライン)	Case report
62	Emi Goto,Takeo Hata, Masami Nishihara,et al	薬剤部	Preventive effect of dexamethasone premedication on the development of infusion-related reaction in breast cancer patients receiving trastuzumab	Br J Clin Pharmacol. 2023;89(7):2102-2112 doi:10.1111/bcp.15675	Original Article
63	Yamada T, Kato R, Ijiri Y, Nishihara M, Neo M.	薬剤部	Disproportionality analysis of acetaminophen-induced hepatic disorders with and without immune checkpoint inhibitors	Int J Clin Pharm. 2023 Apr;45(2):442-450.	Original Article
64	Noriaki Kataoka, Takeo Hata, Kouichi Hosomi, et al	薬剤部	Platelet count and dose, but not comorbidities, predict severe neutropenia in cabazitaxel-treated prostate cancer patients: A retrospective observational study	Int J Clin Pharmacol Ther . 2023 Sep;61(9):386-393.	Original Article
65	Yasuhiro Fujisaka, Takatoshi Nakagawa, Kiichiro Tomoda, et al.	呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	The cytotoxicity of gefitinib on patient-derived induced pluripotent stem cells reflects gefitinib-induced liver injury in the clinical setting	Oncology Letters. 2023 Oct 18;26(6):520	Original Article
66	Shimbo T, Yoshida K, Nakata M et al	放射線腫瘍科	KORTUC, a novel hydrogen peroxide-based radiosensitizer for the enhancement of brachytherapy in patients with unresectable recurrent uterine cervical cancer.	Oncology Letters. 2023;26(378):1-6.	Original Article
67	Fujikawa Y, Fukuo Y, Nishimura K, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	Evaluation of the Effectiveness of Boron Neutron Capture Therapy with Iodophenyl-Conjugated closo-Dodecaborate on a Rat Brain Tumor Model.	Biology (Basel) 2023 Sep;12(9):1240	Original Article
68	Fukumura M, Nonoguchi N, Kawabata S, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	5-Aminolevulinic acid increases boronophenylalanine uptake into glioma stem cells and may sensitize malignant glioma to boron neutron capture therapy	Scientific Reports 2023 June;13(1):10173	Original Article
69	Hiramatsu R, Yagi R, Kameda M, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	Treatment Outcomes of 94 Cases of Pipeline Embolization Device in a Single Center: Predictive Factors of Incomplete Aneurysm Occlusion	J Neuroendovasc Ther 2023 August ;17(10):217-223	Original Article
70	Hoshimaru T, Nonoguchi N, Kosaka T, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	Actin Alpha 2, Smooth Muscle (ACTA2) Is Involved in the Migratory Potential of Malignant Gliomas, and Its Increased Expression at Recurrence Is a Significant Adverse Prognostic Factor	Brain Sciences 2023 Oct;13(10):1477	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Hoshimaru T, Sakai K, Fukuo Y, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	Surgical Outcomes and Medical Costs Associated with Spinal Cord Tumors: Comparison of Extramedullary and Intramedullary Tumors	World Neurosurg 2024 Jan;181:e234-241	Original Article
72	Kameda M, Kajimoto Y, Wanibuchi M.	脳神経外科・脳血管内治療科	New therapeutic hypothesis for infantile extrinsic hydrocephalus.	Front Neurol 2023 Sep;19(14):1212260	Original Article
73	Tsuji Y, Kuroda Y, Wanibuchi M.	脳神経外科・脳血管内治療科	Coil embolization for ruptured distal anterior cerebral artery aneurysm at the supracallosal portion: Two case reports.	Surgical Neurology International 2023 Dec;14:444	Case report
74	Yagi R, Fukumura M, Omura N, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	Vertebral artery is an anatomical landmark in the posterior unilateral resection of cervical benign nerve sheath tumors with dumbbell extension of Eden type 2 or 3.	J Craniovertebr Junction Spine 2023 Oct-Dec;14(4):388-392	Original Article
75	Yamada H, Yagi R, Kambara A, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	Occult neurohypophyseal germinoma discovered during the course of long-term diabetes insipidus: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons 2023 Aug;6(7):CASE23113	Case report
76	Sakai K, Ikeda N, Fukumura M, et al.	脳神経外科・脳血管内治療科	The Safety of Spine Surgery in the Late-Stage Elderly of 75 Years of Age or Older: A Retrospective Multicenter Study	World Neurosurgery 2023 Apr;172:e524-e531	Original Article
77	Sasaki S, Ota K, Iwatsubo T	消化器内視鏡センター	Case of Refractory Gastroesophageal Reflux Disease Successfully Treated with Endoscopic Anti-gastroesophageal Reflux Mucosal Resection by the ESD-G Method (with video)	Intern Med. 2024 Mar 4.	Case report
78	Nishikawa T, Matsui M, Onishi S	中央検査部	Long-Term Outcomes after Switching to Tenofovir Alafenamide in Patients with Chronic Hepatitis B.	Int J Mol Sci. 2024 Feb 13	Original Article
79	Ogura T, Uba Y, Yamamura M	消化器内科	Endoscopic hemostasis using self-expandable metal stent combined with PuraStat® for patient with high risk of post-endoscopic sphincterotomy bleeding (with video).	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2024 Feb	Case report
80	Nishikawa H, Kim SK, Asai A.	消化器内科	Body Composition in Chronic Liver Disease.	Int J Mol Sci. 2024 Jan	Review
81	Nakajima N, Takeuchi T, Hokari R	消化器内科	Background factors of idiopathic peptic ulcers and optimal treatment methods: a multicenter retrospective Japanese study.	J Clin Biochem Nutr. 2024 Jan	Original Article
82	Nishikawa H, Kim SK, Asai A	消化器内科	Liver Carcinogenesis Suppression in Chronic Hepatitis B in the Nucleoside Analogues Era.	In Vivo. 2024 Jan-Feb	Review
83	Mori Y, Iwatsubo T, Hakoda A	消化器内科	Red Dichromatic Imaging Improves the Recognition of Bleeding Points During Endoscopic Submucosal Dissection.	Dig Dis Sci. 2024 Jan	Original Article
84	Ota K, Takeuchi T, Higuchi K	消化器内視鏡センター	Frontiers in Endoscopic Treatment for Gastroesophageal Reflux Disease.	Digestion. 2024 Jan	Review
85	Ogura T, Uba Y, Yamamura M	消化器内科	Endoscopic hemostasis using self-expandable metal stent combined with PuraStat® for patient with high risk of post-endoscopic sphincterotomy bleeding (with video).	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2024 Feb	Original Article
86	Matsui M, Asai A, Ushiro K	消化器内科	Prognostic Nutritional Index Correlates with Liver Function and Prognosis in Chronic Liver Disease Patients.	Diagnostics (Basel). 2023 Dec	Original Article
87	Ogura T, Iwatsubo T, Okuda A	消化器内科	Rescue technique after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy stent dislocation. Endoscopy.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
88	Ogura T, Nakamura J, Sakamoto J	消化器内科	Duodenal metal stent deployment using a novel, cholangioscope-guided, guidewire insertion technique.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
89	Ogura T, Iwatsubo T, Bessho K	消化器内科	Novel pancreatoscope improves diagnostic yield of visual findings for intraductal papillary mucinous neoplasms.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
90	Ogura T, Bessho K, Hattori N	消化器内科	Technical aspects of transpapillary biopsy for gallbladder cancer using a novel cholangioscope.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
91	Sugawara N, Iwatsubo T, Tanaka H	消化器内科	A novel method, gel immersion endoscopic injection sclerotherapy, may make the procedure easier and more accurate.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
92	Ogura T, Iwatsubo T, Sakamoto J	消化器内科	Troubleshooting for difficult removal of a stent delivery system after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
93	Ogura T, Nakamura J, Sakamoto J,	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided antegrade dilation using a drill dilator for a pancreatojejunostomy anastomotic stricture, with pancreatoscopic findings.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
94	Ogura T, Uba Y, Tomita M	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided antegrade dilation using a drill dilator for hepaticojejunostomy stricture with cholangioscopic findings.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
95	Ogura T, Uba Y, Tomita M	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided transgastric pyogenic liver abscess drainage using a drill dilator.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
96	Ogura T, Uba Y, Yamamura M	消化器内科	Successful endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy with use of a novel drill dilator for challenging tract dilation.	Endoscopy. 2023 Dec	Case report
97	Onishi S, Fukuda A, Matsui M	消化器内科	Association between the Suita Score and Body Composition in Japanese Adults: A Large Cross-Sectional Study.	Nutrients. 2023 Nov	Original Article
98	Matsui M, Fukuda A, Onishi S	消化器内科	Insulin Resistance: A Marker for Fat-to-Lean Body Composition in Japanese Adults.	Nutrients. 2023 Nov	Original Article
99	Ueno S, Ogura T, Sakamoto J	消化器内科	EUS-guided hepaticoduodenostomy for posterior bile duct obstruction using a novel plastic stent for isolated posterior bile duct obstruction (with video).	Endosc Ultrasound. 2023 Nov-Dec	Case report
100	Bessho K, Ogura T, Ueno S	消化器内科	Moving scope technique improves technical success rate of device insertion during EUS-guided hepaticogastrostomy (with video).	Therap Adv Gastroenterol. 2023 Oct	Original Article
101	Numa K, Kakimoto K, Tanaka Y	消化器内視鏡センター	Efficacy of Switching to Adalimumab for Maintenance of Remission Following Induction Therapy with Tacrolimus in Patients with Ulcerative Colitis.	J Clin Med. 2023 Oct	Original Article
102	Nakazawa K, Hirata Y, Kakimoto K	消化器内科	Neuroendocrine carcinoma of the small intestine diagnosed as a result of paraneoplastic neurological syndrome.	Clin J Gastroenterol. 2023 Oct	Case report
103	Ogura T, Nakamura J, Sakamoto J	消化器内科	Embankment method to prevent PuraStat dislocation into the third part of the duodenum during endoscopic sphincterotomy bleeding (with video).	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Oct	Case report
104	Ogura T, Uba Y, Nishikawa H	消化器内科	Stent-in-stent technique in a case of difficult removal of a EUS-guided hepaticogastrostomy partially covered metal stent due to mucosal hyperplasia (with video).	Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Oct	Case report
105	Onishi S, Fukuda A, Matsui M	消化器内科	Body Composition Analysis in Patients with Metabolic Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease.	Nutrients. 2023 Sep	Original Article
106	Ogura T, Okuda A, Nishikawa H	消化器内科	Gel immersion endoscopic ultrasound-guided transduodenal drainage to prevent double mucosal puncture.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Sep	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
107	Ogura T, Uba Y, Tomita M	消化器内科	Novel re-intervention device for occluded multiple uncovered self-expandable metal stent (with video).	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2023 Aug	Case report
108	Matsui M, Asai A, Ushiro K	消化器内科	HB Surface Antigen Level as a Useful Predictor for the Treatment Response to Tenofovir Alafenamide in Nucleoside Analogue Naïve Chronic Hepatitis B.	In Vivo. 2023 Mar-Apr	Original Article
109	Kotani T, Matsuda S, Okazaki A, et al.	リウマチ膠原病内科	Risk prediction model for mortality in microscopic polyangiitis: multicentre REVEAL cohort study.	Arthritis Res Ther. 2023; 25(1):223.	Original Article
110	Matsuda S, Oe K, Kotani T,	リウマチ膠原病内科	Serum complement C4 levels are a useful biomarker for predicting end-stage renal disease in microscopic polyangiitis.	Int J Mol Sci 2023 Sep 22;24(19):14436.	Original Article
111	Shiba H, Kotani T, Nagai K, et al.	リウマチ膠原病内科	Prognostic Factors Affecting Death in Patients with Rheumatoid Arthritis Complicated by Pneumocystis jirovecii Pneumonia and One-year Clinical Course: The ANSWER Cohort Study	Int J Mol Sci 2023; 24(8):7399	Original Article
112	Mihata T	整形外科	Editorial Commentary: Superior Capsule Reconstruction: Acellular Allograft at 45° of Glenohumeral Abduction Improves Glenohumeral Stability, but Fascia Lata Autograft Remains Superior.	Arthroscopy. 2023 Apr;39(4):931-934.	Others
113	Nakamura K, Okamoto Y, Wakama H, et al.	整形外科	T1 pelvic angle is associated with rapid progression of hip arthrosis.	Eur Spine J. 2023 Apr;32(4):1463-1470.	Original Article
114	Hasegawa A, Mihata T, Yamamoto N, et al.	整形外科	Postoperative graft integrity affects clinical outcomes after superior capsule reconstruction using fascia lata autograft in posterior-superior rotator cuff tears: a multicenter study.	J Shoulder Elbow Surg. 2023 Jul;32(7):1476-1485.	Original Article
115	Nakamura K, Okamoto Y, Wakama H, et al.	整形外科	Answer to the Letter to the Editor of Y. Yamada, et al. concerning "T1 pelvic angle is associated with rapid progression of hip arthrosis" by Nakamura K et al. (Eur Spine J [2023]: https://doi.org/10.1007/s00586-023-07580-0).	Eur Spine J. 2023 Jul;32(7):2623-2624.	Letter
116	Fujishiro T, Obo T, Mizutani M, et al.	整形外科	Letter to the Editor Regarding "Indication of C2-C7 Cervical Laminoplasty with Muscle and Ligament Preservation in Patients with Kyphosis".	World Neurosurg. 2023 Aug;176:258-259.	Letter
117	Okamoto Y, Wakama H, Matsuyama J, et al.	整形外科	The significance of the pelvic incidence measurement as a possible predictor of TKA outcome.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023 Aug;31(8):3106-3115.	Original Article
118	Shima H, Toge K, Hirai Y, et al.	整形外科	Low-Intensity Pulsed Ultrasound for Symptomatic Pseudarthrosis After Toe Fracture with Symphalangism: A Report of 2 Cases.	JBJS Case Connect. 2023 Aug (オンライン)	Original Article
119	Hirai Y, Shima H, Toge K, et al.	整形外科	Plantar Pressure Distribution Before and After Surgery for Lesser Metatarsophalangeal Joint Dislocation With Hallux Valgus.	J Foot Ankle Surg. 2023 Sep-Oct;62(5):825-831.	Original Article
120	Hirai H, Nakaya Y, Usami Y, et al.	整形外科	C5 nerve palsy following posterior multi-level fusion without neural decompression: A case report.	J Orthop Sci. 2023 Nov;28(6):1584-1586.	Case report
121	Okamoto Y, Wakama H, Matsuyama J, et al.	整形外科	Clinical significance of relative pelvic version measurement as a predictor of low back pain after total hip arthroplasty.	Eur Spine J. 2023 Dec;32(12):4452-4463.	Original Article
122	Otsuki S, Ikeda K, Ishitani T, et al.	整形外科	Effect of lateral hinge fractures for bone union and clinical outcomes following opening-wedge distal tibial tubercle osteotomy in comparison with opening-wedge high tibial osteotomy.	J Exp Orthop. 2023 Dec (オンライン)	Original Article
123	Hirai H, Fujishiro T, Nakaya Y, et al.	整形外科	Clinical outcome of surgical management of mild cervical compressive myelopathy based on minimum clinically important difference.	Spine J. 2024 Jan;24(1):68-77.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
124	Shima H, Toge K, Hirai Y, et al.	整形外科	Operative outcomes of hallux valgus with painful osteoarthritis of the lesser tarsometatarsal joints.	J Orthop Sci. 2024 Jan;29(1):230-235.	Original Article
125	Wakama H, Okamoto Y, Okayoshi T, et al.	整形外科	Unfavorable cortical hypertrophy potentially predisposes to periprosthetic "axe splitter" fracture in a collarless polished curved triple-tapered cemented stem: The time-dependent radiographic change in five SC-stem cases.	J Orthop Sci. 2024 Jan;29(1):439-444.	Case report
126	Mihata T	整形外科	Clinical outcomes of arthroscopic superior capsule reconstruction in patients aged over 70 with irreparable rotator cuff tears.	JSES Int. 2024 Feb (オンライン)	Original Article
127	Haginomori SI	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	An electrophysiological prognostic diagnosis for facial palsy .	Auris Nasus Larynx 2023	Review
128	Nishimura H,Kawata R,Kinoshita I,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Proposal for a novel classification of benign parotid tumors based on localization.	Auris Nasus Larynx 2023	Original Article
129	Nishimura H,Jin D.,Kinoshita I,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Increased chymase-positive mast cells in high-grade mucoepidermoid carcinoma of the parotid gland.	Int J Mol Sci 2023	Original Article
130	Inui T,Kuriyama T,Moriyama K,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Saccular functions differ for Meniere's diseases with and without coexisting headaches.	Front Neurol 2023	Original Article
131	Higashino M,Kinoshita I,Jinnin T,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Predicting postoperative facial nerve paralysis by using intraoperative nerve monitoring during parotid surgery.	Arch Otorhinolaryngol 2023	Original Article
132	Kikuoka Y,Haginomori SI,Ayani Y,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Recurrent facial palsy:Characteristics of ipsilateral and alternative palsies of 104 cases.	Auris Nasus Larynx 2023	Original Article
133	Ozaki A,Kawata R,Kinoshita I,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Management and outcome of adenoid cystic carcinoma of the major salivary glands:the22-year experience of a single institution.	Acta Otolaryngol 2023	Original Article
134	Jinnin T,Futaki S,Hirata A,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Facial nerve dissection in parotid surgery:a microscopic investigation study.	Anat Sci Int 2023	Original Article
135	Higashino M,Saito K,Tsukahara K,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Tracheostomy in otorhinolaryngology education and training programs:A Japanese nationwide survey.	Auris Nasus Larynx 2023	Original Article
136	Inui T, Kimura F, Moriyama K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Evaluation of vestibular functions in a case of vestibular migraine with successful treatment with Erenumab.	Ear Nose Throat J 2023	Original Article
137	Kawata R, Kinoshita I, Jinnin T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Clinicopathological characteristics of four major histological types of high-grade parotid carcinoma.	Int J Clin Oncol 2023	Original Article
138	Higashino M, sugimoto K, Onishi S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Utility of palliative prognostic index and neutrophil-to-lymphocyte ratio in predicting prognosis of end-stage squamous cell carcinoma of head and neck.	Head Neck 2024	Original Article

計138件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
- 5 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の組織、委員会の運営・業務内容、審査資料、審査手順、迅速審査、変更申請、重篤な有害事象に関する審査、報告、記録の保管・公表、規程	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年141回（迅速審査含む）

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの目的・対象、委員会の構成・運用・申告者の相談体制・定期申告・異議申立、自己申告情報の取扱い、学外有識者による検証・評価体制	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年39回（迅速審査含む）

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 『生命科学・医学系研究指針』『臨床研究法』で押えておきたい基本と改正のポイントおよび「試料・情報」の適正な取扱いについて	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を修了した医師及び歯科医師を対象とする研修は、医療法施行規則第六条の四第一項に規定する診療科ごとにそれぞれの診療領域における臨床経験 10 年以上を有する者を研修統括者として定め、主に基本領域専門医資格もしくはサブスペシャリティ専門医資格を取得することを目的とし、それぞれの学会が定めた専門的な研修プログラムに則り実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	166人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
今川 彰久	糖尿病代謝・内分泌内科	科長	35年	
荒若 繁樹	脳神経内科	科長	33年	
池田 宗一郎	呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	科長	36年	
武内 徹	リウマチ膠原病内科	科長	36年	
西川 浩樹	消化器内科	科長	25年	
秋岡 寿一	血液内科	科長	30年	
星賀 正明	循環器内科	科長	39年	
美馬 晶	腎臓内科	科長	27年	
鈴木 富雄	総合診療科	科長	33年	
金沢 徹文	精神神経科	科長	24年	
李 相雄	一般・消化器・小児外科	科長	29年	
岩本 充彦	乳腺・内分泌外科	科長	31年	
花岡 伸治	呼吸器外科	科長	36年	
大門 雅広	心臓血管外科・小児心臓血管外科	科長	28年	
鰐淵 昌彦	脳神経外科・脳血管内治療科	科長	33年	
大槻 周平	整形外科	科長	26年	
芦田 明	小児科、新生児科	科長	36年	
藤田 太輔	産科・生殖医学科	科長	23年	
大道 正英	婦人科・腫瘍科	科長	40年	
喜田 照代	眼科	科長	28年	
萩森 伸一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	35年	
森脇 真一	皮膚科	科長	38年	
東 治人	腎泌尿器外科	科長	36年	
大須賀 慶悟	放射線診断科	科長	32年	
二瓶 圭二	放射線腫瘍科	科長	30年	
日下 裕介	麻酔科・ペインクリニック	医長	20年	
上田 晃一	形成外科	科長	40年	
佐浦 隆一	リハビリテーション科	科長	38年	
高須 朗	救急医療部	科長	38年	
植野 高章	歯科口腔外科	科長	36年	

廣瀬 善信	病理部・病理診断科	部長	31年	
松村 洋子	中央検査部	医長	27年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）				
研修の内容	研修日 (期間)	実施 回数	参加 人数	所管 部署
肝疾患（肝性脳症）について	2023/7/20 2023/12/11 2024/2/29	3	10	栄養課
人工呼吸器サーボシリーズについて	2023/8/1~2024/3/31 (e-learning)	1	1,529	臨床 工学室
除細動器について	2023/8/1~2024/3/31 (e-learning)	1	1,762	臨床 工学室
BLS研修：一時救命処置の 対応について	2023/5	5	127	看護部
気管内挿管介助：挿管介助の 演習、実践	2023/9~2023/11	27	122	看護部
救急看護：救急場面の標準的な 看護実践	2023/11~2023/12	8	139	看護部
フィジカルアセスメント:臨床推論・全身状 態とバイタルサイン・循環器・呼吸器・腹 部	2023/11~2024/1 (e-learning)	1	75	看護部
強度変調放射線治療 (IMRT) の標準線量検 証法に関する研修_線量計の相互校正(クロ スキャリブレーション)	2023/12/21	1	9	中央放射 線部
高度の医療に適した多職種連携による口腔 ケアに関するワークショップ（高度医療の 周術期管理に適した口腔ケア介入の効果と 多職種連携による口腔ケアの実践につい ての研修）	2023/4/24	1	40	歯科口腔 外科
口腔疾患に関する教育講演（口腔粘膜疾患 など口腔疾患に対する教育研修）	2023/12/16	1	30	歯科口腔 外科
安全な薬剤管理・与薬のポイント（新人 看護師研修, 看護部・クリニカルラダーに 沿って実施）	2023/4/27 2023/7/3	2	140	薬剤部

医薬品の安全な取扱いについて（毒薬，麻薬・向精神薬，注射用カリウム，インスリン製剤等）	2023/4～12	適宜実施のため集計不可	薬剤部
がん医療に携わる医療従事者を対象に幅広い内容で下記のとおり、研修会を行っている。OMPU緩和ケアセミナー、緩和ケアセンター勉強会、がん登録実務者研修会、がんと共生の両立支援セミナー、病院薬局連携研修会、在宅医療普及促進事業研修会、ELNEC-J（End-of-Life Nursing Education Consortium -Japan、三島医療圏がん研究会	研修会によっては時間・回数は異なるが、概ね年1回、2～3時間程度の開催であり、各回100名以内の参加		がん医療総合センター
各研究会、市民公開講座への立案と実施と参加、患者への指導 （各研究会、講習会で学ぶだけでなく、開催の立案と実施にも参画することで横断的診療体系の重要性を学ぶことができる）	3月 横断的診療体系の構築を学ぶ 8月 ハンズオンを含めた市民公開講座 11月 地域医療従事者対象のアレルギー疾患に対する研究会 各回50-100名程度が参加		アレルギーセンター

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

研修の内容	研修日（期間）	実施回数	参加人数	所管部署
除細動器メンテナンス研修	2024/1/29～2024/2/28 動画個別視聴	1	24	臨床工学室
A C H - Σメンテナンス研修	2024/2/28 スライド 個別視聴	1	24	臨床工学室
外来診療におけるチーム作業効率を上昇にむけた研修（外来診療における業務効率上昇を図るため、チーム編成や作業の明確化に向けた研修）	2023/11/14 2024/1/9 2024/3/5	3	12	歯科口腔外科
薬剤師臨床研修（ラダーⅠ，1年目） （業務全般について（感染/安全対策 など））	2023/4～2024/3 (e-learning)	1	11	薬剤部

薬剤師臨床研修（ラダーⅠ，1年目） （薬効別 SGD）	2023/4～2023/12	12	11	薬剤部
薬剤師臨床研修（ラダーⅡ，2～3年目） （栄養，NST 関連（末梢静脈栄養，経腸栄養など））	2023/4～2023/6	6	2～3	薬剤部
薬剤師臨床研修（ラダーⅡ，2～3年目） （感染（ICT・AST）/TDM/症例検討）	2023/7～2023/9	8	2～3	薬剤部
薬剤師臨床研修（ラダーⅡ，2～3年目） （緩和薬物療法）	2023/11～2024/3	7	2～3	薬剤部
薬剤師臨床研修（ラダーⅡ，2～3年目） （糖尿病関連）	2023/10	1	2～3	薬剤部
薬剤師臨床研修（ラダーⅡ，2～3年目） （がん領域（抗がん剤基礎/支持療法とCTCAEなど））	2023/10～2023/11	5	2～3	薬剤部
病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務関連研修 （ラダーⅠⅡ，1年目～，中途採用） （患者指導/テンプレート活用/病棟定数配置薬管理など）	2023/4～2024/3 (e-learning)	1	15	薬剤部

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 勝間田 敬弘	
管理担当者氏名	診療情報管理室長 上田 英一郎 中央放射線部長 山本 和宏 病院看護部長 中山 サツキ 医療安全推進室長 新田 雅彦 感染対策室長 小川 拓 庶務課長 森迫 宏幸 医事課長 正木 義朗 人事課長 中角 有希 医薬品安全管理責任者 西原 雅美 医療機器安全管理責任者 李 相雄	病院薬剤部長 芦田 明 広域医療連携センター長 勝間田 敬弘 医療総合管理部長 星賀 正明 Q I 管理室長 上田 英一郎 病院事務部長 藤岡 俊吾 患者サービス課長 園田 泰弘 総務部長 記伊 敏哉

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	
		各科診療日誌	電子カルテ	
		処方せん	電子カルテ	
		手術記録	電子カルテ	
		看護記録	電子カルテ	
		検査所見記録	電子カルテ	
		エックス線写真	電子カルテ	
		紹介状	電子カルテ	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ	年度別に分類している診療に関連する記録の保管・管理は、平成26年1月4日以前は紙媒体のID番号管理で外来カルテ・入院カルテに分けてすべて外部倉庫で保管している。現在は電子カルテ上でID番号管理。診療録の院外持出し禁止。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿		庶務課
		高度の医療の提供の実績		医事課 診療情報管理室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		各部署
		高度の医療の研修の実績		各部署
		閲覧実績		広域医療連携センター 診療情報管理室
		紹介患者に対する医療提供の実績		各診療科
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、病院薬剤部 広域医療連携センター		各管理部署にて保管している
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	
			医療安全推進室にて保管している	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	各部署にて保管している
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	病院薬剤部 医療総合管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院薬剤部 医療総合管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	病院薬剤部 医療総合管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院薬剤部 医療総合管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室 医療総合管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室 医療総合管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室 医療総合管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療総管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	病院薬剤部 医療総管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療総管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	QI管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	QI管理室
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	広域医療連携センター 患者サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全推進室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
管理者が有する権限に関する状況	人事課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課 法人監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

各管理部署にて保管している

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="checkbox"/> 2. 現状 <input checked="" type="checkbox"/>
閲覧責任者氏名	病院事務部 部長 藤岡俊吾
閲覧担当者氏名	広域医療連携センター 勝間田 敬弘 診療情報管理室 上田 英一郎 病院事務部庶務課 森迫 宏幸 病院事務部患者サービス課 園田 泰弘
閲覧の求めに応じる場所	広域医療連携センター
閲覧の手続の概要 「大阪医科薬科大学病院 諸記録閲覧規程」に基づく	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 医療に係る安全管理のための委員会及び本院の組織に関する基本的事項 3. 従業者に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針 4. 本院における医療に係る安全の確保を目的とした改善策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者の間の情報共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. 高難度新規医療技術の導入並びに未承認薬等を用いた医療の導入を検討するに当たっての基本方針 9. その他の医療安全推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の質と安全確保の推進に関わる課題について審議する。 2. 医療安全調査委員会や医療改善委員会の報告を受け、検討内容及び改善策を検証する。 3. 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従事者への周知を図る。 4. 安全管理委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直す。 5. 安全対策に関するマニュアル等の検討及び見直しをする。 6. 安全に関する教育・研修及び啓発に関する活動内容について検討する。 7. クリニカルガバナンスに関わる懸案について審議する。疑義があると判断した際には、病院長がその部署に対して改善及び指導を行う。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年8回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>第1回医療安全研修会（2023年4月28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当院における医療安全体制について 医療安全推進室 室長新田雅彦 <p>第2回医療安全研修会（2023年6月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童相談所における児童虐待対応について～医療ネグレクトを中心に～ 大阪府吹田こども家庭センター次長兼相談対応第一課長 河野 万寿美様 ・ 無輸血治療希望者（エホバの証人信者など）への対応におけるポイント 輸血室 室長 河野 武弘 <p>第3回医療安全研修会（2023年8月23日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関向け虐待対応啓発プログラムBEAMS（ビームス） Stage1 	

愛仁会高槻病院副院長小児集中治療 主任部長 起塚 庸 先生

第4回医療安全研修会（2023年9月15日）

・医療安全の源流

東和会グループ 医療安全アドバイザー 第二東和会病院 村尾 仁 医師

・WPSDのテーマとその取り組みについて

医療安全推進室 新田 雅彦 室長

・患者と医療者の協働で築く医療安全

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子 様

第5回医療安全研修会（2023年10月11日）

・医療ガス講習会

日本エア・リキード合同会社 エリアマネージャー 見山 昌一 様

・医薬品安全使用に関する事例検討～どうする医薬品安全！原点に戻って考えよう～

医薬品安全管理責任者 西原 雅美 薬剤部副部長

第6回医療安全研修会（2023年11月29日）

・医事紛争の法的責任とクレーマー対策

横井盛也法律事務所 弁護士 横井盛也先生

第7回医療安全研修会（2024年1月26日）

・1年間の重大事例振り返り

医療安全推進室 室長 新田 雅彦

第8回医療安全研修会（2024年2月6日）

・大学病院を取り巻く諸課題について

文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院 支援室 専門官 富本 恵美先生

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有 ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 当事者は、担当医（指導医）、RM、関係診療科医師等へ連絡を行い、適切な対応を行ったうえで、速やかに報告する。
 2. 医療安全推進室は報告事例から対応策を検討し、当該部門長およびRMと連携し対応する。
 3. 分析、対処に当たった事例および対応中の事例は、安全管理委員会で報告し検討を重ね、事故の再発防止策についてRMを通じて医療従事者全員へ周知徹底を図る。
 4. 安全管理委員会は医療安全推進室からの報告に基づき、分析結果の妥当性、リスクの重大性、リスク予測の可否、システム改善の必要性、事故の予防策、再発防止策について決定する。
 5. 3b以上の事例および3aレベル以下であっても、重大な結果に至る可能性のある事例や患者家族の納得が得られない事例等については、医療安全管理部門ミーティング、医療安全調査委員会にて検討する。
 6. 安全管理委員会に報告後、必要に応じて医療改善委員会を立ち上げ、対策を具体化する

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大阪医科薬科大学病院（以下、「本院」という。）における院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会、その他本院の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 8. 本指針の改廃の手続きについて 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に関する基本方針および院内感染対策実施に関する事項について協議する。 2. 院内感染発生時または発生が疑われる場合等の対応について協議する。 3. 院内感染対策指針および院内感染対策に関する各マニュアル等の制定・改廃の承認について協議する。 4. 委員会が報告を受けた感染対策室の業務内容について必要に応じて協議する。 5. 委員会が感染対策室より報告を受けた院内感染に関する教育および啓発に関する活動内容について必要に応じて協議する。 6. チームの協議内容について必要に応じて協議する。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第53回研修会（eラーニング）</p> <p>・ 抗菌薬と耐性菌の基本 看護部感染対策委員会 リンクナース</p> <p>第54回研修会（2023年5月31日）</p> <p>・ 新型コロナウイルス感染症5類変更後の感染対策 感染対策室 浮村 聡 室長</p> <p>第21回研修会（2023年7月28日）</p> <p>・ 感染症診療における微生物検査の見方と考え方 奈良県立医科大学 感染症センター 教授 笠原 敬 先生</p> <p>第55回研修会（2024年1月23日）</p> <p>・ 事例から学ぶ結核の院内感染 感染対策室 浮村 聡 室長</p> <p>・ カルバペネム体制腸内細菌目細菌（CRE）について 感染対策室/中央検査部 柴田有理 臨床検査技師</p> <p>・ CREアウトブレイクについて 感染対策室 川西 史子副参事</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 感染情報レポートを作成し感染対策委員会で発生状況の報告を行う。
2. 各種委員会、担当者会議等、会議を通じて発生状況の報告を行う。
3. 定期的なサーベイランス及び病棟巡回を通じて院内感染対策活動の推進と改善と共に、適正な抗菌薬の使用についての介入を実施。
4. ICT-News を全部署に配布し、院内感染対策の推進を行う。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年39回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品（麻薬、毒薬、ハイリスク薬など）の安全な取扱いについて（対象：新人看護師） ・ 医薬品安全管理に関する事例検討 [～ どうする医薬品安全！原点に戻って考えよう～]（対象：全従業者） ・ 簡易懸濁法勉強会（対象：看護師、救急医療部・医師） ・ 救急カートの取扱いについて「医薬品編」（対象：看護師） ・ 抗菌薬（TDM対象）の採血時間・方法について（対象：看護師） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項（未承認新規医薬品等に関する事項を含む） 2. 調剤室・病棟における医薬品の管理に関する事項 3. 病棟・各部門への医薬品の供給に関する事項 4. 外来・入院患者に対する医薬品の使用（処方・調剤・服薬指導など）に関する事項（医薬品の使用前の確認に関する事項含む） 5. 医薬品情報の収集・管理・提供に関する事項（未承認等の医薬品の使用の情報等を含む） 6. 手術・麻酔部門における医薬品安全使用に関する事項 7. 救急部門・集中治療室における医薬品安全使用に関する事項 8. 輸血用血液製剤・アルブミン製剤の安全使用に関する事項 9. 血液透析関連・人工心肺関連の医薬品安全使用に関する事項 10. 臨床検査部門・画像診断部門における医薬品安全使用に関する事項 11. がん化学療法に関する事項 12. 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 「グルタールアルデヒド保存液0.6%」「シクロペントラート点眼液0.025%」「デノシン点眼液0.5%」「リドカイン軟膏10%」など、院内製剤の調製・使用事例あり ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報配信サービスなどWEBによる情報収集、製薬メーカー・卸などからオンライン・対面による情報収集 2. 院内の医薬品の使用状況を定期的に確認し必要な措置を講ずる <ul style="list-style-type: none"> →未承認医薬品等の使用、適応外・禁忌等に該当する処方の把握、必要性の検討等 →レベル評価に応じて使用後モニタリング実施 →月報として、管理者、医療安全管理責任者等に定期的に報告 3. 医薬品安全管理に係るヒヤリハット事例、インシデント事例の改善策について、医薬品安全管理チーム等で協議・検討し、診療科長会、外来・病棟合同会議等で周知 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急カート内；アドレナリン注シリンジの注意喚起ラベル 	

- ・インスリンバイアル製剤（ヒューマリンR）/専用シリンジの取扱い（注意喚起）
- ・「口頭指示メモ」様式変更に伴う試験運用について

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年57回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 新規導入時研修および定期点検では、医療機器の①有効性・安全性に関する事項、②使用方法に関する事項、③保守点検に関する事項、④不具合が生じたときの対応、⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項、の5項目のいずれかもしくは全項目を受講対象者に合わせて構成した内容にしている。 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 2. 人工呼吸器 3. 血液浄化装置 4. 除細動装置（自動体外式除細動器（AED）を除く。） 5. 閉鎖式保育器 6. 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 7. 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 8. その他医療機器 <p>その他、必要性や要望に応じて臨時研修を実施している。</p>	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： メーカーが推奨する点検項目及び点検期間に準じ点検を計画・実施している。院内点検を実施する機器に対しては、メーカーによるメンテナンス講習を可能な限り受講するようにしている。 点検計画及び実施状況は医療機器安全管理責任者の承認及び病院管理者への報告を実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報配信サービスなど、WEBによる情報収集、医療機器メーカーなどから直接的に情報を収集。 2. 医療機器安全管理に係るヒヤリハット事例、インシデント事例の改善策として、必要に応じて新聞や書面を配布するなど情報を共有。 3. 新しい医療機器の導入時の研修の制度化（研修が使用対象者全員受講後に納品する）。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/> 医師 ・ 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理部門である医療総合管理部の部長に医療安全管理責任者 (副院長) を配置している。 ・ 医療安全管理責任者は安全管理委員会の副委員長を担っている。 ・ 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び、医療放射線安全管理責任者は医療安全管理部門に属しており、医療安全管理責任者が統括している。 									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (8名) ・ 無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報配信サービスなどWEBによる情報収集、製薬メーカー・卸などから対面・オンラインによる情報収集 2. 情報入手当日もしくは翌日 (翌診療日) の薬剤部内朝礼で情報伝達 3. 緊急性に応じて「緊急薬剤部情報」「薬剤部情報」を作成し院内各部署へ配布 4. 処方医師に確実に伝達が必要な場合には、処方医リストを作成しDI室から直接処方医・当該診療科の薬事委員に連絡・通知 (電話もしくはE-MAIL)。さらに、DI室で使用患者一覧を作成し病棟担当薬剤師に提供するとともに、病棟担当薬剤師、若しくはDI担当薬剤師から担当医師・病棟医長・病棟看護師などに情報提供。また、病棟担当薬剤師は処方医師が当該情報を確認・把握しているか確認。 5. 院内版薬剤部HPに新着情報掲載 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内の医薬品の使用状況を定期的に確認し必要な措置を講ずる <ul style="list-style-type: none"> → 未承認医薬品等の使用、適応外・禁忌等に該当する処方方の把握、必要性の検討など → レベル評価に応じて使用後モニタリング強化 → 月報として、管理者、医療安全管理責任者等に定期的に報告 2. 未承認新規医薬品等評価委員会 (= 病院倫理委員会) の委員に委嘱されている 3. 未承認新規医薬品等評価部門 (= 医療総合管理部 (QI 管理室)) を兼務している ・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 担当者の所属・職種 : <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(所属 : 薬剤部, 職種 薬剤師)</td> <td style="width: 50%;">(所属 : 医療安全推進室, 職種 薬剤師)</td> </tr> <tr> <td>(所属 : , 職種)</td> <td>(所属 : , 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属 : , 職種)</td> <td>(所属 : , 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属 : , 職種)</td> <td>(所属 : , 職種)</td> </tr> </table> 		(所属 : 薬剤部, 職種 薬剤師)	(所属 : 医療安全推進室, 職種 薬剤師)	(所属 : , 職種)					
(所属 : 薬剤部, 職種 薬剤師)	(所属 : 医療安全推進室, 職種 薬剤師)								
(所属 : , 職種)	(所属 : , 職種)								
(所属 : , 職種)	(所属 : , 職種)								
(所属 : , 職種)	(所属 : , 職種)								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 									

- ・当院で作成したインフォームド・コンセントの指針に基づき周知をはかり、診療科に対して使用を促すために医療安全ラウンドとして、診療科に対して周知を行っている。
- ・電子カルテ調査実務委員会が実施するカルテオーディットにおいて、説明等の実施に関する記録についても監査を行い、委員会や全体会議で報告するとともに、医療安全研修でも取り上げている。
- ・診療情報管理室とQI管理室にて、IC記録のための電子カルテのテンプレート（ICテンプレートの使用件数のモニタリングや、記載内容の評価を行っている。
- ・高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等に関しては、QI管理室にて全例確認を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・外来診療録、入院診療録の監査（オーディット）を紙カルテの頃から行っている。電子カルテ移行後は、電子カルテ調査実務委員会として、一人の患者さんの外来受診から退院までを、電子カルテ調査実務委員会において多職種で行っている。 ・オーディットの結果は、診療科長会や病棟・外来合同会議等の全体会議でフィードバックするとともに、医療総管理ラウンドにて診療科別にフィードバックし、改善を促している。また、改善を要する主な事例については医療安全研修でも取り上げている。 ・退院時サマリーの2週間以内完成の調査、入院診療計画書の記載確認、入院診療録の初診記録記載状況の確認等を行っている。また、毎週死亡患者について、死亡患者と死亡診断書の確認、死産件数の確認を行っており、医療安全推進室へ報告を行っている。 ・電子カルテの記載の仕方については、臨床研修医の初任研修を医師と共に行っており、入院の初診記録の記載の仕方や、退院時サマリーの記載の仕方、インフォームド・コンセント（IC）記録の記載の仕方、病名登録の仕方についてなどの記載支援を行っている。また、医師事務作業補助者についても、初任研修として、外来の初診記録の記載の仕方や、説明同意書や説明用紙、IC記録への記載の仕方について、記載支援を行っている。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（7）名、専任（0）名、兼任（15）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 「事故等」事例の発生頻度、事故の損害規模、事故の質等を分析 2. 診療内容のモニタリング 3. 安全対策についての問題点を把握し、改善策の企画立案やその実施状況の評価 4. 医療の安全管理の体制確保及び推進のための課題を検討するための、医療安全管理部門ミーティング開催 5. 安全対策に関するマニュアル等の具体的な検討及び見直し 6. 医療安全に係る職員への教育・研修を企画・実施 7. 感染対策室と密接な連携をとり、院内感染防止に努める 8. 医薬品安全管理責任者と密接な連携に基づく、医薬品の安全確保 9. 医療機器安全管理責任者と密接な連携に基づく医療機器の安全使用の確保 10. 医療放射線安全管理責任者と密接な連携に基づく医療用放射線の安全利用の確保 11. 未承認新規医薬品等並びに高難度新規医療技術を用いた医療の導入に関するを行う 12. その他、必要な事項は別に定める 	
<p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に</p>	

係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・診療科等の長から高難度新規医療技術の導入に係る申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会及び病院倫理委員会の意見を踏まえ、適否等を決定する。
また、当該高難度新規医療技術が適正に提供されていたかどうかに関し、定期的又は術後に患者が死亡した場合及びその他必要な場合には、診療録等の記載内容、従業者の遵守状況を確認し、結果を病院長に報告する。
 - ・未申請で実施される技術が無いが、定期的に調査・確認を行う。
 - ・高難度新規医療技術の該当性に係る相談、その他の相談への対応を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・診療科等の長から未承認新規医薬品等の使用に係る申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、病院倫理委員会の意見を踏まえ、適否等を決定する。
また、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に病院長に報告する。さらに、使用後に患者が死亡した場合及びその他必要な場合には、診療録等の記載内容、従業者の遵守状況を確認し、結果を病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 902 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 75 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 医療安全推進室長は全死亡症例の把握（死亡の事実、死亡前の状況）を行い、管理者に説明と報告を行う。
 2. 医療安全推進室長は、通常の経過では必要のない処置又は治療が必要になった事象の報告を受けた際は、直ちに、状況を把握し、管理者に説明と報告を行う。
 3. 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従事者への周知を図る。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：静岡県立静岡がんセンター））・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：静岡県立静岡がんセンター））・無
- ・技術的助言の実施状況

【静岡県立静岡がんセンター ⇒ 当院】特になし

【当院 ⇒ 静岡県立静岡がんセンター】

●医薬品等の安全使用体制の状況（医薬品安全管理責任者の業務等）

a) インスリン専用シリンジの注意喚起について

使用時に冷蔵庫、引き出し等に専用シリンジの使用を促す注意喚起がされていなかった。また、専用シリンジと一般用シリンジが仕切りなく配置されており、誤投与となるリスクがあったため改善いただきたい。

b) KCL 運用の認識について

投与中の輸液への KCL 追加投与について、現場の認識とポケットマニュアルの記載内容に齟齬があった。KCL 単独処方の運用を含めて見直しを行っていただきたい。

c) 内服薬の自己管理評価について

患者の管理能力を看護師のみで判断を行っていた。管理能力は、ライフスタイルを含めて評価が必要であり、薬剤師と共に評価を行うことが重要である。薬剤師のタスクシフトを含め、業務の見直しを図り、病棟活動が行えるような環境整備を行っていただきたい。

d) 救急カートの配置場所について

救急カートが病棟毎に配置場所にばらつきがあった。CPR 時に初動の遅れに繋がる可能性があるため、可能な限り同じ場所に整備いただきたい。

●高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況

・未承認等の医薬品についての使用後モニタリングについて

未承認等医薬品使用後のモニタリングが受動的になっており、モニタリング体制が不十分であった。評価委員会や医薬品安全管理責任者と協議いただき、運用やフローの整備を行っていただきたい。

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：兵庫医科大学病院））・無

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：兵庫医科大学病院））・無

・技術的助言の実施状況

【兵庫医科大学病院 ⇒ 当院】

●インシデントやアクシデントの報告等の状況（報告、分析、改善策の立案及び実施等）

a) インシデントやアクシデントが同じシステムで入力できることや、インシデントの入力に患者 ID や当事者がわかること、当院ではアクシデントは紙提出であることなど、施設によって大きく異なっていたので驚きました。インシデントにおいて患者や当事者がわかることが良いのか悪いのかわかりませんが、お互いにその理由について述べられるようにしておく必要があると感じます。

b) 15000 を超えるレポートの提出数は非常に素晴らしいと思いますし、我々の取り組みの不十分さを実感しました。貴院でもおっしゃっておられましたが、レポートの分析などレポート数が多いことでの課題があるのではと思いました。

●インシデントやアクシデントの報告等の状況（報告、分析、改善策の立案及び実施等）

・医師の報告件数は 3.4% と低い。これはどこの病院でも同様の傾向であるが、報告数 UP につながる対策が今後の検討課題である。

●高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況

・高難度新規医療技術には監査シートを用いた全例モニタリングが行われており評価できる。

【当院 ⇒ 兵庫医科大学病院】

●医薬品等の安全使用体制の状況（医薬品安全管理責任者の業務等）

a) 特定生物由来製品の使用記録についてロット番号の転記誤りが生じています。特生には 20 年間の記録保管義務があり、不正確な記録は遡及調査の際など患者にとって不利益となります。管理簿のシステム化など検討されてはいかがでしょうか。

b) 患者の薬剤管理能力の評価基準が病棟毎で異なっています。入院中は勿論、退院・転院後にも配慮した適正な薬剤管理を行うためにも、職種間・院内統一の評価基準を検討されてはいかがでしょうか。
c) 処方監査は病棟薬剤師が十分行い、薬剤部（セントラル）では照合に特化した調剤業務の運用となっています。効率的なフローではありますが、PDA 端末の導入などシステム化を進めるとより安全で効率的な薬剤業務が実現できるのではないのでしょうか。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者サポート体制充実加算を算定しており、患者向けのあらゆる相談について窓口の体制を有している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○新入職員オリエンテーション

全職種が一堂に会すオリエンテーションで、医療安全、医薬品、医療機器、医療放射線、感染対策の講義を実施。さらに研修医とレジデントには以下の5つを追加して実施

- ・「HBV（B型肝炎）再活性化問題について」
- ・「CVC（中心静脈カテーテル）挿入について」
- ・「インスリン安全使用について」
- ・「インシデントレポートについて」
- ・「TeamSTEPPS 研修」

他、メディカルスタッフには、「TeamSTEPPS 研修」を実施。

○AED（自動体外式除細動器）講習会（1回/年）・・・新入職員（病院勤務者のみ）オリエンテーション

- ・安全管理体制の一貫として、病院全職員を対象に AED 講習会を実施。
（CPR コール体制を定着させるとともに AED、心肺蘇生に関する教育及び、実技講習）

○CVC シミュレーション講習会（5回/年）

- ・平成 22 年 4 月より、CVC 認定医制度を導入。CVC シミュレーション講習会及び、CVC 認定医筆記試験を実施。

○e-learning システムによる研修受講必須

- ・「アラームへの不適切な対応」看護師対象

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】

日本医療機能評価機構「2023 年度特定機能病院管理者研修（継続・6 時間）」
（2023 年 11 月 20 日受講）

【医療安全管理責任者】

日本医療機能評価機構「2023 年度特定機能病院管理者研修（継続・6 時間）」
（2024 年 1 月 31 日 受講）

【医薬品安全管理責任者】

日本医療機能評価機構「2023年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）」
（2024年1月26日受講）

【医療機器安全管理責任者】

日本医療機能評価機構「2023年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）」
（2024年1月15日受講）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・ 第三者による評価の受審状況
日本医療機能評価機構認定（一般病院3・精神科病院） 2020/07/25～2025/07/24
- ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
病院のWEBサイト上に掲載している。
- ・ 評価を踏まえ講じた措置
改善要望事項なしのため対応なし

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 臨床研修等修了医師である者 (2) 医療の高度安全確保に必要な資質・能力・経験を有している者医療法第16条の3第1項によることは勿論、具体的には医療安全の管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等の資質・能力・経験を有している方を求めます。 (3) 大阪医科薬科大学病院の管理運営に必要な資質・能力・経験を有している者具体的には、当該病院内外での組織管理経験、とりわけ当該病院以外の病院における管理職経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力・経験を有している方を求めます。 (4) 大阪医科薬科大学病院の理念等を実現するために必要な資質・能力を有している者大阪医科薬科大学病院が掲げる理念の実現を目指す強い意思とこれらを継続的かつ確実に推進する強力なリーダーシップを有している方を求めます。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 大学WEBサイトへの掲載、紙ベースの学内掲示にて公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 大学WEBサイトへの掲載、紙ベースの学内掲示にて公表している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
假野 隆司	学校法人大阪医科薬科大学 外部理事・評議員	○	医療制度に詳しい者	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無

佐野 浩一	学校法人大阪医科 薬科大学 学長・副理事長		法人組織に詳しい者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
谷村 慎哉	パーク綜合法律事 務所 弁護士・学 校法人大阪医科薬 科大学 評議員		法律の専門家	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
根尾 昌志	大阪医科薬科大学 整形外科学教授		特定機能病院の医療に詳しい者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
星賀 正明	大阪医科薬科大学 内科学Ⅲ 教授（副院長）		特定機能病院の医療に詳しい者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
中山 サツキ	大阪医科薬科大学 病院 看護部 部長		特定機能病院の医療看護に詳し い者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
石浦 基文	大阪医科薬科大学 法人技術部 次長 中央放射線部 副部長		特定機能病院の医療機器に詳し い者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
高野 正子	高槻市立子ども保 健センター管理医 師 （元高槻市保健所 長）		医療安全及び院内感染対策に詳 しい者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
法幸 貞次	大阪府三島救急医 療センター理事		患者及び地域医療に詳しい者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 管理運営に関する重要事項 診療科長等の病院人事 立入指摘事項に対する対応 病院理念や基本方針検討 ・審議の概要の従業者への周知状況 診療科長会及び外来・病棟合同会議で周知を図っている。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法：なし ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
勝間田 敬弘	○	医師	病院長
星賀 正明		医師	副院長（安全（危機）管理担当・医療の質向上担当）
鰐淵 昌彦		医師	副院長（広域医療連携担当・診療報酬担当）
金沢 徹文		医師	副院長（医師の働き方改革及び業務改善担当・個人情報管理担当・栄養部担当）
芦田 明		医師	副院長（薬剤（危機）管理担当・新病棟移転準備担当）
李 相雄		医師	副院長（救急診療と診療科・診療部門の連携担当・手術部・医療機器管理担当）
中山サツキ		看護師	病院看護部長
藤岡 俊吾		事務職員	病院事務部長
高田 直紀		事務職員	病院事務部付課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法：なし
- ・ 規程の主な内容

【規程等の名称】

学校法人大阪医科薬科大学 大阪医科薬科大学病院病院長規則

【管理者が有する権限等の規定内容】

上記規則第2条第1項に開設者から委任を受けた任務について、同第2項に権限の行使について規定している。

第2条 病院長は、法律等に基づくものを含め、開設者が委任する以下の任務を行う。

- (1) 医療の高度の安全を確保すること。
- (2) 高度の医療を提供すること。
- (3) 高度の医療技術の開発及び評価を行うこと。
- (4) 高度の医療に関する研修を行わせること。
- (5) 学生及び研修医にそれぞれ実習及び研修を行わせること。
- (6) 診療に関する諸記録、病院の管理及び運営に関する諸記録を体系的に管理すること。
- (7) 前号の書類の閲覧を求められたときは、法律等に従って閲覧させること。
- (8) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し、医療を提供すること。
- (9) 規則等で定める事項
- (10) 開設者に対して病院の管理運営状況を定期的に報告すること。
- (11) その他必要な事項

2 病院長は、前項の任務を果たすために、大学病院の管理運営上必要な意思決定を行うとともに、医療従事許可等の人事、予算執行等に関して、適切に権限を行使するものとする。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長（安全（危機）管理担当・医療の質向上担当）

副院長（広域医療連携担当・診療報酬担当）

副院長（医師の働き方改革及び業務改善担当・個人情報管理担当・栄養部担当）

副院長（薬剤（危機）管理担当・新病棟移転準備担当）

副院長（救急診療と診療科・診療部門の連携担当・手術部・医療機器管理担当）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は、日本医療機能評価機構の特定機能病院管理者研修を受講している。また、病院看護部長は、一般社団法人日本私立医科大学協会病院部会看護部長会議に参加し、病院事務部長は、同病院事務長会議に参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：毎回、いくつかのポイントについてヒアリング等を実施し、開設者、管理者に対して意見表明を行っている。過去 2 回の意見表明内容は以下のとおり。</p> <p>(第 14 回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Thank you レポートについて、報告システムが更改されることに併せて医師や研修医からの報告数を高めるために引き続き鋭意努めること。 2) 医療安全に関するフィードバックの報告書の運用については、労力を少なくして最大限の効果を 得るような工夫が必要であり、運用のあり方について改めて検討すること。 3) 医療安全上の課題となる事案の発生に対して、医療安全調査委員会での要因分析、再発防止策 の検討などは適切に実施されているように伺える。今後は、再発防止策の実施が徹底されてい るかの検証について検討すること。 4) 医療事故が発生した場合で、事故報告書の内容が本委員会で共有できるような方法について検 討すること。 5) 内部通報窓口についての通報対象事実の範囲、匿名性の確保方法やその他必要な実施方法につ いて、職員の理解の度合いを推し量るような取り組みを行うとともに、継続して周知を行うこ と。 6) 医療安全に関するワーキングについて今後も継続し、成果が得られた内容について、本委員 会で報告すること。 7) 医療安全管理部門の業務について、継続性の視点から業務内容の見直しや整理を行い、より有 効な活動に向けた検討を行うこと。 <p>(第 15 回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師からの Thank you レポートの報告数が 2019 年度から毎年減少しているため、昨年 10 月 導入の導入したシステムの使用を促進するような方策を検討すること。 2) 臨床研修医からの Thank you レポートの報告数を増加させるために、指導医からの推奨や報 告をしやすいような環境について検討すること。 3) 法令で求められている医療安全や感染防止その他に関する研修について、対象者の受講率が 100%を達成するような対策を検討し、実施すること。また、出席状況の確認作業について、 業務分担の視点から検討すること。 	

- 4) リスクマネージャー会議について、出席率が低い部署に対して改善を促すような方法を検討し、実施すること。
- 5) 医療安全上の課題や事故が発生した際の病院としての対応や処理は、適切に行われているように伺える。新たに発生した重大事案に対しても改善策の実施が徹底されているかの検証について、引き続き本委員会で報告すること。
- 6) 内部通報窓口について、活用が推進されるように引き続き取り組みを継続すること。
- 7) 医療安全に関するワーキングについて今後も継続し、進捗状況や成果を本委員会で報告すること。なお、今回は令和6年11月13日に開催する予定である

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (・ 無)
- ・ 委員名簿の公表の有無 (・ 無)
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (・ 無)
- ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法：なし

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小林 一郎	社会医療法人仙養会 北摂総合病院	○	高槻市医師会の医療安全対策委員会委員であり医療に係る安全管理に関する識見	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	1
西 信一	学校法人兵庫医科大学 宝塚市立病院		大学病院の元副院長、市民病院の現総長であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	1
家郷 資大	家郷総合法律事務所		現職の弁護士であり、法律に関する識見を有する者であるため	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	1
沖田 章子	神戸総合医療専門学校 平成リハビリテーション専門学校		実際に医療を受ける者であり、意見をのべることができる者であるため	有 ・ <input type="checkbox"/> 無	2
門田 雅人	学校法人大阪医科薬科大学		大学医学部の職員経験があり、医療等の内容及び説明、同意文書が一般的に理解できるか等の意見をのべることができる者であるため	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

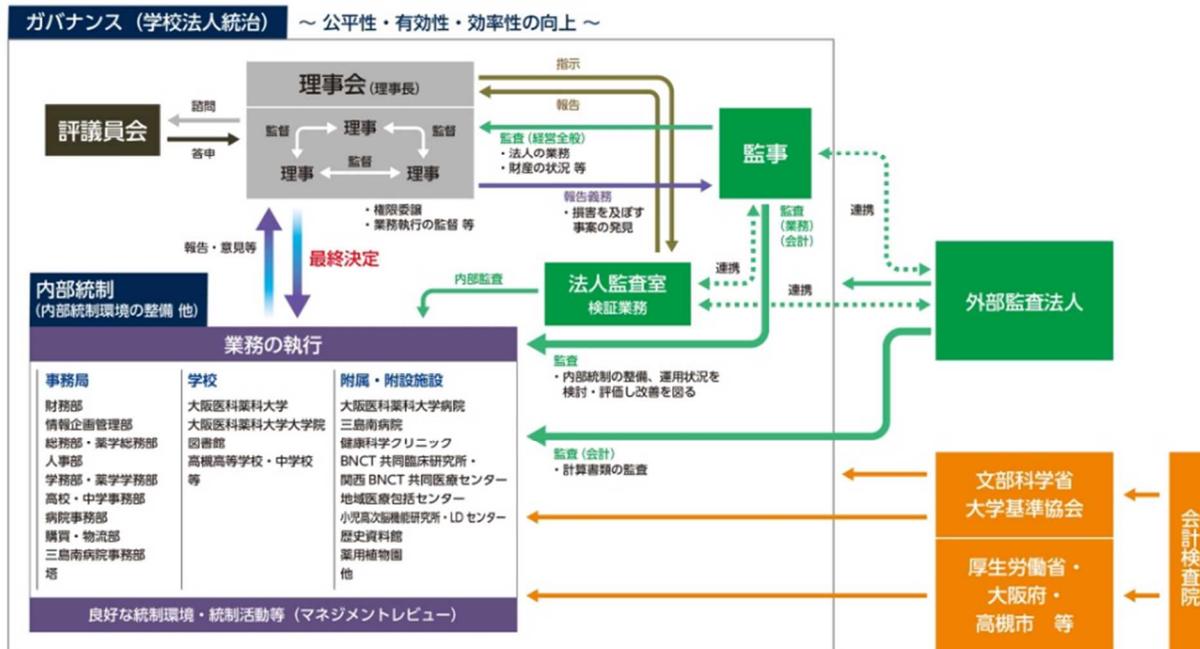
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人大阪医科薬科大学は経営と組織運営を支えるために「ガバナンス」と「内部統制システム」を確立しており、病院管理者の業務の法令適合等についても様々なプログラムを通じて検証している。

- 1) 業務執行部署の管理責任者の業務が適切に行われていることに対しマネジメントレビューが行われる。病院管理者の場合、当該責務は開設者となり医療法施行規則第15条の4第1項第3号ロの回答に繋がる。
- 2) オーナー部署の活動が適切に行われていることを第三者検証する仕組みとして各種モニタリングがあり、多様な検証手法を組み合わせることで質保証の確認を行う。例えば、法人内で実施する全業務定期検証法人部会、監事監査、内部監査、三様監査人会議など、学外者による検証では、病院機能評価、医療安全業務外部監査委員会、官公庁等検査、会計監査法人監査など様々な検証結果を有効活用しながら管理者の質保証を確認している。
- 3) 令和6年度は、監事並びに法人監査室が医療総合管理部並びに病院事務部に対するヒアリングを行い病院管理者の業務が法令に適合していることを確認した。特に本年度は令和5年度から変更になった部分を重点的に確認した。当該結果は監事から法人運営会議や理事会に報告され情報共有される。
- 4) 限られたW/Lの中で、効果的、有益な検証方法を有効活用して検証する。

学校法人大阪医科薬科大学のガバナンス図



- ・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ ）

・ 公表の方法：なし

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
管理者（病院長）は、理事として理事会に毎回出席し、開設者（理事長）以下、理事、監事が一堂に会する中で、毎回病院関係報告を行うこととなっているため、理事会自らが業務の監督を行う体制が整備されている。その他、理事会以外にも、法人運営会議、法人大学高校協議会、全業務定期検証法人部会、病院経営改善委員会等の法人設置の会議体において、施策や現状を検討・報告する機会があり、これらの会議に理事長以下、理事、監事が同席する体制が敷かれており、開設者による業務の監督体制は徹底されている。
- ・ 会議体の実施状況（ 年17回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年15回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法：なし

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <p>公益通報窓口と一体運用を行い、公益通報窓口については、学内掲示・WEB サイトで周知する他、電子カルテシステムの画面上にも掲載している。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <ul style="list-style-type: none">■ 地域がん診療連携拠点病院としての役割 患者さんや市民、または医療従事者に対し、年間を通じ、市民公開セミナー、勉強会や研修会、がん患者サロン等を開催しており、情報発信のみならず、意見交換や交流を行っている。また、がん医療総合センターホームページにおいて、開催案内や、受診状況ならびに治療成績等を掲載し、情報発信を行っている。■ 特定機能病院としての役割 リーフレット作成：大阪医科薬科大学病院とは別に、かかりつけ医をもってもらうことに訴求したリーフレットを作成し、外来などで患者へ配布している 病院WEBサイトの作成：診療科ごとの診療内容など患者様にわかりやすく記載している また、医療機関向けのページも作成している。適正な診療科や専門外来への誘導・支援に貢献している■ 肝疾患センター（肝疾患診療連携拠点病院）としての役割 専用WEBサイトの作成：疾患の特徴、治療方法、注意事項などを説明している 肝臓病教室の開催：3か月に1回の頻度で実施。患者さんを対象に、多職種（医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど）を講師として1時間のミニレクチャー 市民公開セミナーの実施：1年に1回市民を対象にした公開講座を実施 肝疾患センター：講座や肝炎の啓発など情報提供を定期的実施■ 難病総合センター（難病診療連携拠点病院）としての役割 専用WEBサイトの作成：年に1回「難病診療アンケート」を各診療科に実施し、難病総合センターのホームページにて公開している。 研修会の開催：年1回以上開催。難病の診療・ケアに携わる地域の医療介護従事者を対象に医師、看護師、コメディカルの講演を実施。コロナ禍以降はWEB配信にて開催。 三島圏域難病医療ネットワーク会議：医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護支援専門員協会、訪問看護ステーション協会、保健所が参加。事務局として活動。 →2020年度以降、コロナ禍のため無期限中止していたが、2024年11月に開催予定。■ アレルギーセンターとしての役割<ul style="list-style-type: none">・ 専用WEBサイトの作成：各分野の疾患についての解説ページを拡充し市民目線での情報公開を行っている。非公式ではあるがX（旧Twitter）を介しての情報公開活動も行っている。・ 講演会の開催：1年に3回の講演会を開催している。3月には多職種連携に基づく横断的診療体系の構築をテーマに、8月には市民対象の公開講座（これまで咳、食物アレルギー、皮膚疾患をテーマにした公開講座を開催）、11月には地域医療従事者対象として、小児のアレルギー等をテーマとした講演会を実施した。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>■ がん医療総合センター 診療科の医師、病理医、放射線治療医、看護師、薬剤師など、多診療科多職種横断的ながん診療ボード・骨転移がん診療ボードを組織して集学的治療を有機的に行える体制を整え、最適な治療を受けられるように支援している。さらに、「若いがん患者の妊孕性温存」については、関連する複数の診療科の医師、看護師が連携を取りワーキンググループを開催、患者リストへの登録、専用テンプレートの作成など横断的な診療を行っている。がんゲノム医療連携病院として、各診療科、病理部、中央検査部、遺伝カウンセリング室などが、有機的に連携できるようがんゲノム医療管理室が機能している。</p> <p>■ アレルギーセンター 呼吸器内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、眼科の診療科に加えて、看護部、薬剤部、栄養課、中央検査部からなる有機的集合チームである。横断的診療体系の構築と多職種連携を基盤として、北摂、三島地域の住民に対する質の高いアレルギー診療の提供を主目的としている。「アレルギーにやさしいまち」をモットーとして活動を積極的に行っている。</p>	